

業務資料 No. 648

移住地概要

昭和56年度版

国際協力事業団



移 住 地 概 要

JICA LIBRARY



1019638(4)

国 際 協 力 事 業 団

国際協力事業団		
受入 期	'84. 3. 10	600
登録No.	00098	23.4
		EPP

は し が き

現在の「移住地概要」は、昭和53年10月に改訂されたものであるが、この間、移住先国の社会情勢および移住地の諸事情もかなり変化しているところから、現状に即さない点多々あるので、可能な限り最近の移住地情報の蒐集に努めるとともに、その後の新設移住地、さらに移住先国の基礎指標、日本人移住史および移住所在地域の概要を加え、改訂したものである。

なお、部分的に若干不十分な面もあろうと思われるので、今後の改訂課題としたい。本資料が移住関係諸機関の方々の参考となれば幸いである。

昭和57年3月

移住計画調査部長

目 次

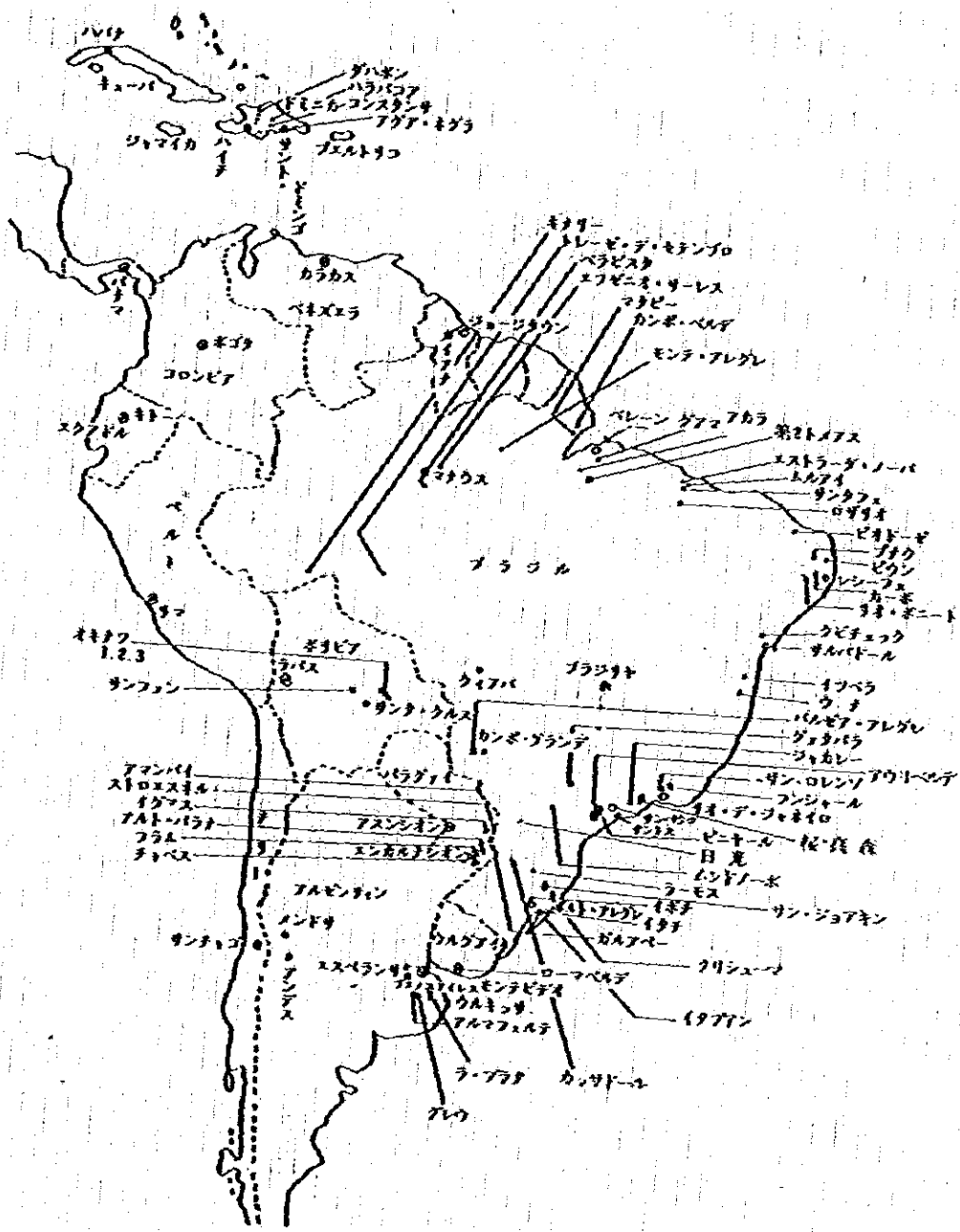
ブラジル連邦共和国

1. 基礎指標	1
2. ブラジルへの日本人移住の歴史	3
I. ベレーン支部	9
1. 移住地所在地域の概要	10
2. 日本人移住の歴史	11
3. 移住地概要	13
(1) 第1トノアス-移住地	13
(2) 第2トノアス-移住地	16
(3) グアマ移住地	19
(4) アカラ移住地	22
(5) モンテ・アレグレ移住地	25
(6) アルタミーラ移住地	28
(7) マタピ,カンボ,ベルデおよびマカパー市近郊(アマパー州)移住地	31
(8) サン・ルイス近郊移住地	34
(9) エフィゼニオ・サーレス移住地	36
00 ベラ・ピスタ移住地	39
00 トレーゼ・デ・セテンプロ移住地	42
02 キナリー移住地	45
03 その他移住地の概要	48
II. レシーフェ支部管内	51
1. 移住地所在地域の概要	52
2. 東北伯日本人移住の歴史	53
(1) ビオリ2世移住地	54
(2) ビウン移住地	57

(3) リオ・ボニート移住地	60
(4) ウナ移住地	63
(5) カーボ移住地	66
(6) インペラ移住地	68
(7) クビチェック移住地	71
(8) タペロア移住地	74
(9) その他移住地並びに集団地別概要	76
III. リオ・デ・ジャネイロ支部	79
1. 移住地所在地域の概要	80
2. 移住地の概要	82
(1) フンシャル移住地	82
(2) サン・ロレンソ小移住地	85
IV. サン・パウロ支部	89
1. 移住地所在地域の概要	90
2. 移住地の概要	95
(1) ジャカレイ移住地	95
(2) グアタバラ移住地	98
(3) ビニョール移住地	102
(4) ムンド・ノーボ移住地	105
(5) 桜・高森移住地	108
(6) アウリベルデ移住地	110
(7) バルゼア・アレグレ移住地	112
(8) 日光移住地	115
V. ポルト・アレグレ支部	121
1. 移住地所在地域の概要	122
2. 移住地の概要	124
(1) ラーモス移住地	124
(2) イボチ移住地	127
(3) イタチ移住地	130

(4) イタジャイ移住地	133
(5) カッサドール移住地	136
(6) バジェー移住地	139
(7) クリシューマ移住地	141
(8) サン・ジョアキン移住地	144
(9) イタブアン移住地	147
アルゼンティン共和国	
V. ブエノス・アイレス支部	151
1. 基礎指標	152
2. アルゼンティンへの日本人移住の歴史	154
3. 移住地の所在地域の概要	155
4. 移住地の概要	159
(1) ガルアベー移住地	159
(2) アンデス移住地	162
(3) エスペランサ移住地	165
(4) アルマ・フェルテ移住地	167
(5) ローマ・ベルデ移住地	169
(6) マルコス・パス移住地	171
(7) エル・パット移住地	174
(8) セラージャ移住地	177
(9) ラ・プラタ移住地	179
(10) グレウ移住地	182
(11) エル・チャニヤール移住地	185
(12) ブエノス・アイレス市近郊移住地	188
パラグアイ共和国	
VI. アスンシオン支部	193
1. 基礎指標	194
2. パラグアイへの日本人移住の歴史	196
3. 移住地所在地域の概要	197

4. 移住地の概要	200
(1) フラム移住地	200
(2) チャベス移住地	204
(3) アルト・パラナ移住地	207
(4) イグアス移住地	211
(5) ストロエスネル移住地	215
(6) アマンバイ移住地	216
(7) ラ・コルメナ移住地	219
ボリヴィア共和国	
Ⅷ. サンタ・クルーズ支部	225
1. 基礎指標	226
2. ボリヴィアへの日本人移住の歴史	228
3. 移住所在地域の概要	229
4. 移住地の概要	231
(1) サン・ファン移住地	231
(2) オキナワ移住地	236
ドミニカ共和国	
XI. サント・ドミンゴ支部	247
1. 基礎指標	248
2. ドミニカ共和国への日本人移住の歴史	250
3. 移住地所在地域の概要	252
4. 移住地の概要	254
(1) ダハボン移住地	254
(2) コンスタンサ移住地	257
(3) ハラバコア移住地	260
附録 移住地内日系団体	



ブラジル連邦共和国

- I. ペレーシ支部
- II. レシーフェ支部
- III. リオ・デ・ジヤネイロ支部
- IV. サンパウロ支部
- V. ボルト・アレグレ支部

1. 基礎指標

首都：ブラジリア

面積	独立年月日	政体	宗教	言語	民族または人種構成	通貨
8,511,965 km ²	1822. 9. 7.	連邦 共和国	カトリック 約89%	ポルトガル語	白人(54.8%)、混血 (38.5%)、黒人(5.9 %)、アジア系(0.6%) 不明(0.2%)	Cruzeiro

IBOE '80年差

(1) 人口、人口密度、人口増加率

	1960	1970	1971	1972	1973	1974
人口 (千人)	69,730	92,520	97,170	97,850	100,560	103,350
人口密度	8.19	10.87	11.42	11.50	11.81	12.11
人口増加率	3.0	2.9			2.89人	
	1975	1976	1977	1978	1979	1980
人口	107,115	109,180	112,240	115,400	118,650	123,030
人口密度	12.50	12.83	13.19	13.56	13.91	14.45
人口増加率						2.48

IBOE

(2) 産業別就業人口

	13,796,763人	百分比		13,796,763人	百分比
農業	13,109,415	29.9%	サービス業	3,014,909	6.9%
工業	7,523,883	17.2%	運輸・報道関係	1,815,511	4.2%
自由業	7,089,709	16.2%	公務員	1,812,152	4.1%
商業	4,111,307	9.4%	その他	2,138,753	4.9%
建築業	3,451,091	7.2%			

IBOE '80年差

(3) 国民所得

	75	76	77	78	79	
国民所得総額	995,364,0	1,535,414,1	2,281,707,2	3,313,930,9	5,358,387,3	百万Cr\$
1人当り国民所得	9,200	13,918	20,155	28,730	41,776	Cr\$

(4) 国内生産

単位10億C r \$、%

	1973		1974		1975		1976	
	額	比率	額	比率	額	比率	額	比率
農 業	44.3	11.0	65.7	11.2	87.8	10.5	137.7	10.7
鉱工業	11.5	2.9	19.3	3.3	29.6	3.6	41.8	3.3
製造業	118.8	29.5	179.3	30.5	251.9	30.2	380.3	29.6
建設業	22.9	5.7	35.0	6.0	47.4	5.7	70.7	5.5
卸小売業	61.7	16.1	95.8	16.3	132.8	15.9	201.3	15.7
運輸業等	21.0	5.2	29.7	5.1	42.6	5.1	66.8	5.2
その他	119.2	29.6	162.0	27.6	241.9	29.0	384.8	30.0
合 計	402.4	100.0	586.8	100.0	831.0	100.0	1,283.4	100.0
	1977		1978					
	額	比率	額	比率				
農 業	236.8	12.4	320.7	11.4				
鉱工業	59.4	3.1	83.6	3.0				
製造業	513.8	28.5	797.6	28.3				
建設業	108.9	5.7	161.0	5.8				
卸小売業	296.7	15.5	430.1	15.2				
運輸業等	97.7	5.1	157.5	5.6				
その他	566.7	29.7	865.9	30.7				
合 計	1,910.0	100.0	2,819.4	100.0				

IBOR '80年差

(5) 物価指数

	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
卸売物価	60.85	78.58	100.00	113.27	204.08	280.82	437.76	903.88
消費者物価	60.76	77.55	100.00	112.01	201.08	283.06	432.24	790.20

出所 I.M.F.

(6) 輸出入構成

1978年

(単位 百万ドル)

輸 出		輸 入	
コ-ヒー豆	2,288	石油類	4,485
大豆かす	1,049	電気・電子機器	2,871
鉄 鉱 石	1,027	有機化学品	1,513
ココア豆	451	鉄 鋼	472
砂 糖	350	輸 送 機 器	651
合 計	12,661	合 計	13,630

(輸出入ともPOP)

1979年

(単位 100万\$)

輸 出		輸 入	
コ ー ヒ ー 豆	1,917	石 油 類	6,785
鉄 鉱 石	1,288	機 械 ・ 電 気 ・ 電 子 機 器	3,512
大 豆 か す	1,137	有 機 化 学 品	1,913
コ コ ア 豆	489	鉄 鋼	516
コ コ ア 製 品	461	輸 送 機 器	498
イ ン ス タ ン ト コ ー ヒ ー	408	光 学 機 器	460
砂 糖	361		
大 豆 油	327		
合 計	15,201	合 計	19,801

2. ブラジルへの日本人移住の歴史

日本人のブラジル移住は、ドイツ人(157年目)イタリア人(107年目)のそれに対し、73年目を迎えているが、およそ次の3期に分かれる。

○ 第1期(1908-23年) 31,291人

日露戦争後の海外発展熱、農村の過剰人口と不況に加え、北米の移住制限が重なる一方、ブラジルでのイタリア移民の減少によって、コーヒー園労働者としての需要が高まり、サンパウロ州政府の渡航費一部補助によって始められた。

移住者の大半は出稼ぎ目的の農村出身者であり、コーヒーコロノとして始まり、次第に植民地建設もすすめられた。初期の主な移住地は次のとおり。

ピリグイ 移住地(英領植民地)	1913年設立
イグアッペ 移住地(桂ジストロ、セッテバーラスの隣接)	1913年設立
平 野 移住地(カフェランジャ)	1915年設立
ブレジョン 移住地(アルヴァレス・マッシャード)	1917年設立
上 塚 移住地(プロミッソ)	1918年設立

○ 第2期(1924-41年) 148,737人

大正末から昭和初期の日本国内の経済不況を反映する一方、日本政府の海外拡張政策により政府の渡航費全額補助が制度化され、この時期は、ブラジル移住の黄金期ともいえる。サンパウロ州奥地はもとより、1930年代には、北パラナ州へも進出し、今日の基盤を築いた(昭和8-9年には、年間の移住者数は2万名をこえた)。海外興業KK、ブラジル拓殖会社などによって、移住地建設もすすめられた。主な移住地は次のとおり。

アリアンサ 移住地 (1924年設立) 野村農場 (1927年設立) パンデランテス
 バストス 移住地 (1928年設立)
 チエテ 移住地 (1929年設立) 東山農場 (1927年設立) カンピーナス
 トレス・バーラス 移住地 (1932年設立)

一方1929年Kは、南米拓植会社Kによって、アマゾン移住 (現在の第1トノアス) が始められ、1937年
 までK、352戸 (2,104名) が移住した。この時期Kアマゾン産業研究所 (上塚司) 引受けの高拓生
 (国土館高等拓植学校、後の日本高等拓殖学校) 移住もすすめられた。

更K、コチア産業組合 (1927年)、南ブラジル産業組合 (1929年)、サンパウロ産業組合中央
 会 (1939年) が次々と創立された。ベルガス大統領時代に、ブラジル総合政策が推進され、その一
 環として外国移民2分制限法 (1934年) によって、日本人移住は年間2,849名に制限され、一方、
 14才未満の子弟への外国語教育禁止令 (1938年) によって、子弟への日本語教育も禁止された。
 1941年の第2次大戦によって移住は杜絶し、まさに空白期 (11年間) を迎えた。

この間移住者の大部分は第二次大戦終了後帰国を断念して永住を決意し、子弟の教育に力を入れ、
 大学進学も増加した。

一方日本の敗戦に対し、勝ち組、負け組の紛争もあり日系社会K暗い影をおとした。

○ 第3期 (1950年-現在) 52,615人

戦後環境と化した国土と、外地引揚及び復員者約630万人を含む過剰人口を抱え、苦難期を迎えた日本
 も1952年サンフランシスコ平和条約による国交回復によって、海外発展熱が高まった。

1952年8月、アマゾン移住5,000家族 (辻小太郎幹) と、中央ブラジル移住4,000家族 (松原安太郎幹)
 がブラジル政府より受入を許可され、1952年12月のアマゾン移住 (51名) Kによって11年振りに移
 住が再開された。次いで、パウリスタ妻妾移民 (1953年)、コチア青年移民 (1955年) がすすめら
 れた。

日本では、海外移住振興株式会社 (1955年)、日本海外協会連合会 (1954年) が設立され、大々
 現地機関を設け、ブラジルの連邦州の植民地への自営開拓農業移住をすすめ一方、又日本側の直営
 として次の移住地が創設された。

移住地名	創設年	面積
バルゼア・アレグレ移住地	1957年	36,363ha
グァタバラ	1958年	7,291
フンツォール	1959年	1,015
ジャカレイ	1959年	613
ピニョール	1962年	756
第二トノアス	1962年	25,800
アウリグェルデ	1977年	418

ブラジルの工業化K伴い、1961年から、従来の農業移住 (自営開拓農と雇農、分益農方式) K加えて
 新たな工業技術移住が始められた。

又、1973年4月から移住者の技能も従来の船による輸送から航空機へ切り替えられた。

近年ブラジルの国内経済、社会情勢の進展に伴い、外国人移住者の受入れについてブラジル政府による選別は逐年強化されていく傾向にある。

在留邦人統計

国(地域)名又は公館名	1 総 数 (2+3)			2 長 期 滞 在 者		
	男	女	計	男	女	計
ブラジル(大)	1,756	1,489	3,245	56	39	96
サン・パウロ(総)	65,782	57,086	122,868	2,297	1,908	4,205
ベレーン(総)	2,217	1,800	4,017	158	100	258
ポルト・アレグレ(総)	1,217	932	2,149	50	36	86
リオ・デ・ジャネイロ(総)	3,555	3,008	6,563	1,305	1,093	2,398
レシフェ(総)	867	689	1,556	91	88	182
マナオス(領)	672	510	1,182	97	22	119
ブラジル(全球)	76,066	65,514	141,580	4,057	3,286	7,343
国(地域)名又は公館名	3 永住者(日本国籍保有者)			4 日 系 人		
	男	女	計	男	女	計
ブラジル(大)	1,700	1,450	3,150	3,600	3,000	6,600
サン・パウロ(総)	63,485	55,178	118,663	329,445	316,906	646,351
ベレーン(総)	2,059	1,700	3,759	2,417	2,410	4,827
ポルト・アレグレ(総)	1,167	896	2,063	1,466	1,337	2,803
リオ・デ・ジャネイロ(総)	2,250	1,915	4,165	4,896	4,702	9,598
レシフェ(総)	773	601	1,374	806	611	1,417
マナオス(領)	575	488	1,063	718	731	1,449
ブラジル(全球)	72,009	62,228	134,237	313,378	329,757	643,135

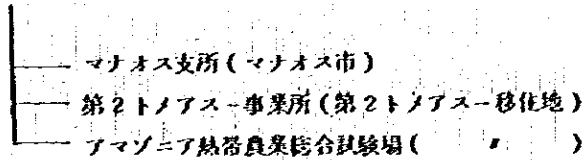
昭和55年10月1日現在

I. ベレーン支部

1. ベレーン支部

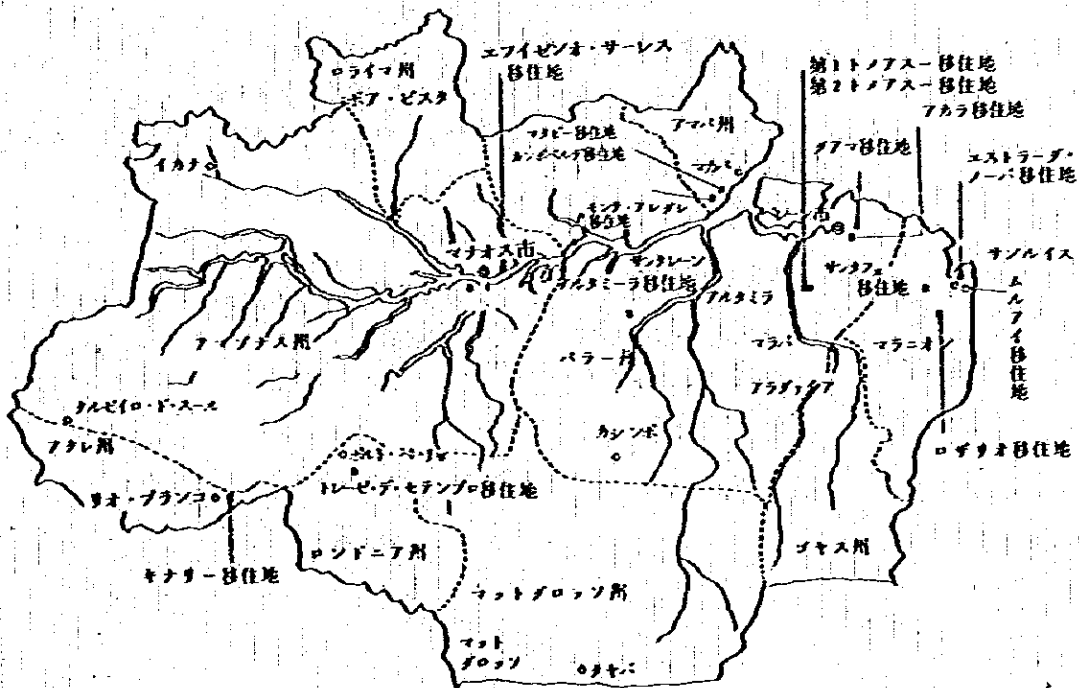
支部機構

ベレーン支部(ベレーン市)



管轄州

パラ、アマゾナス、アクレ、マラニョン、ピアウイ、 Rondônia の6州、アマバ、ロライマ、の2直轄州及びゴヤス州北部



1. 移住地所在地域の概要

支轄地 自治	<p>パラ州、アマゾナス州、アクレ州、マラニオン州、ピアウイ州、ロンドニア州、ロライマ直轄州、アマバ直轄州、ゴヤス州の一部</p>
自然環境	<p>地質：地勢はギアナ山系のブラジル中央高原に囲まれた巨大な沈積盆地である。アマゾン盆地の土壌はアマゾン高原が鮮新世末新世(洪積世)の時代のもので、海拔は西部で150~250 m、東部ではそれより低く、地表面は厚さ10~20 mの均一で重粘なBettira粘土からなっている。最も普通に分布している土壌は、サンシク・フェステルソル(Fx)で排水の不完全な部分はブリシク・アクリソル(A.P.)で、セラードの植生をもっている。また、種々の平坦面の洪積世段丘の地帯は、Fxの土壌であるが、土性は多様で、東部程砂質である。低い段丘には粗粒質の酸性砂土(A.P.)及び結核型Fxが分布し、一部の段丘には、インジョの黒い土と呼ばれる土壌がある。</p> <p>気候：赤道の南北にまたがる高温多湿の熱帯多雨林型気候で12~6月頃が雨期で、7月~11月頃が乾期である。但し雨期の雨の降り方、雨量、乾期の乾燥の程度は地域により多少異なり、例えば、マラニオン州の一部は海洋性気候で年間を通じ、雨が比較的均等に分布し、又ボリヴィアとの国境、ローライマ州のタイアノなどは、ベレーンとは雨期、乾期が数ヶ月ずれる。気温はベレーン市の年間平均で27.1℃、日較差平均10.8℃、湿度88%。</p> <p>アマゾン河：ベレーン領のアンデス山中に、その源を発し、本流の長さは6,100km(マカパ市側)である。またアマゾン河全体の河川延長は40,091kmでその水量(1秒間に8万立方米)及び流域面積の広さは世界第1位である。</p>
主要都市	<p>〔ベレーン市〕 南緯1°28'03"、西経48°29'18" 海拔10 m、面積736km²、河口より138kmの地点に所在、1916年1月12日創立のアマゾニア開発庁(SUDAM)、北米農業試験場(EMBRAPA)、パラ食糧供給センター(CEASA)、国立パラ総合大学、国立パラ農科大学、私立大学2校、植物園、日伯保護協会、協会直営のアマゾニア病院などがある。</p> <p>〔マナウス市〕 南緯3°08'07"、西経60°01'31" 海拔21 m、面積14,337km²、1966年創立、ベレーン市より河川路上1,713km上流にあり一万吨級の外洋船が入港できる自由貿易都市である。19世紀後半にはゴムの景気によって一時大いに繁栄し、その遺産としてマナウス劇場がある。しかしその後衰退したため、アマゾニア西部地域開発振興策の一環として昭和42年アマゾナス州、アクレ州、ロンドニア州がフリーゾーンとして創設され、それらの移出入港として、マナウス港が指定された。なおフリーゾーンの期間は30年間である。この地域に差出している日系企業にシャープ、サンヨー、ホンダ、チエリ無線などがある。</p>

インメロンとハワイパイヤがあり南伯市場に大きなシェアを占め、且つこれが好水となって地元産の熱帯果樹にも関心が高まるなど影響は大となっている。この様に、アマゾン入植の日本人によって行われた農産物は、今日アマゾンの中心産業としてブラジルの繁栄の一翼を担い且つ国際的産物としての評価も高い。このような姿こそ海外移住の意義を实地に発揮した生きた例証といえよう。

3. 移住地概要

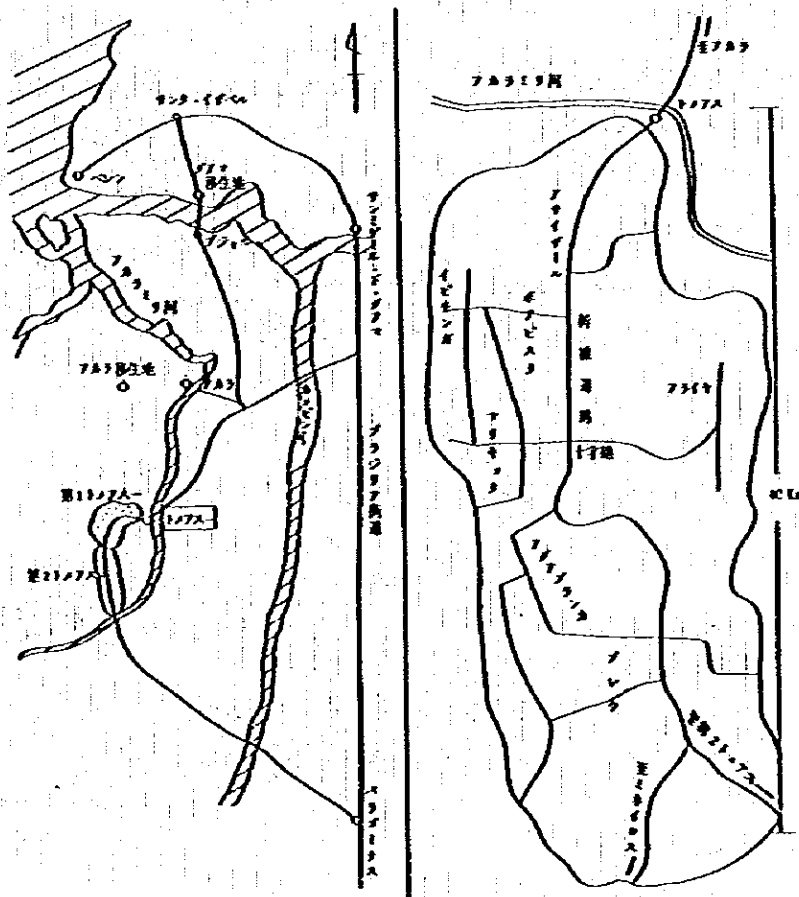
(I) 第1トマス移住地

所在地	パラー州トマス MUNICÍPIO DE TOMÉ - AÇU, ESTADO DO RARÁ	
面積	約150,000 ha	
経緯	昭和4年南米拓殖株式会社の移住地として発足、同年7月神戸港出港のモンテ・ビデオ丸で移住した43家族がはじめて入植、その後戦前852家族(2,104人)の入植をみたが営農上の失敗やマラリアの発生等により退植者が多く、89家族が定着した。 戦後は昭和28年に入植が再開され、同年に29家族が入植、現在は385家族1,896人が居住している。 戦前移住者の大部分は会社から土地分譲を受けて入植したが、戦後は戦前移住者の農場の雇用契約終了後、雇用主の奨励又は事業団融資等により独立するケースが多かった。	
自然環境	地形	標高11~30m(平均20m)概ね平坦地区内をアカラ川の支流アカラ・ミリー河、トマスー川、及びマリキータ川等大小の河川が横断している。
	地質・土壌	ラテライト系の肥沃度中程度の土壌で、表土は比較的有機質に富む暗灰色砂壤土、埴壤土。
	植性・林相	熱帯性原生林に覆われ、アンジェリン、イペー、アカブー、マサロンドウバ、ジャラナ等の有用材も混在している。
	気候	熱帯性の高温多湿なるも(年間平均27.2℃、最高34℃、最低20.9℃)、ベレーン周辺よりは乾湿の変化が顕著である。雨期は12~5月、乾期は6~11月、平均年間降雨量2,500mm。
社会環境	主要都市への交通手段	道路網の開発が進んだため、往年唯一の交通路であった270kmの水路(アカラ川)は殆ど利用されていない。また一昔前と盛んであった空路テコテコ便も客が少なくなったため、定期便を廃線としている。 一方、陸上交通は、北へはトマスー→コンゴルジア→ブジョール→(フェリーで渡村)→サンタ・イザベル→ベレーンに至る全長約220kmの州道PA140号線と、トマスー→コンゴルジア→(フェリーで渡村)→クワレンタ・エ・オイト→ベレーン→ブラジリア(国道)→ベレーンに至る全長約320kmの州道PA252号線の2本と、市へは第2トマス入植地経由、パラオミナスでベレーン・ブラジリア(国道)に接続の全長約100kmと合計3本の交通路が開かれている。ベレーン・トマス間定期バスも1日6便運行している。
	市場	最寄りの市場のベレーン市は、人口93.4万人(1980年調査I.B.G.Eより)を擁

社 会 環 境	地区内道路整備 状況	る赤道下としては世界最大の都市で、産物の大半がここで消費、または州外移出や 国外輸出がされている。 トモアスの主産物であるビメンタヤカカオは、大半が輸出向けで、北米、ヨーロ ッパ、アルゼンティン等が主な市場となっており、メロン、マモン、マラクソト等は 生果用として主にリオ、サンパウロへ、加工用としては、パイナ、フォルタレーザ 等広く南伯諸都市を市場としている。 幹線は一部アスファルト舗装であるが全と砂利道の州道、支線は盛土である。								
	電 気	49年11月アグアブランカ地区に発電所が完成。(第2トモアス住宅地には及んで いない)								
	飲 料 水	トモアス・十字路間区において配電工事中(三相13800ボルト60サイクル) 飲料水は15m~25m程度の深さで水を得ることが可能であり、自家掘り抜井戸で 湧っている。								
	公 共 施 設 農 協 自治会等	組合事務所本館1(3階レンガ建)、倉庫4、乾燥機1、発電機1、給水施設1、 組合購買部、農業・肥料部各1、機械修理所1 昭和49年11月には州立病院が完成し、医療業務にあっている。このほかベレ ーン奨励が日系医師を定期的に派遣している。この他個人経営病院2、診療所 3、薬局4がある。								
	事業団援助	小学校1校、寄宿舎1棟、 州立小学校(4年生を)3校の他、郡立小学校10数校(低学年用)及び州立中 学校(5年~8年生)2校がある。 文化協会本館、別館、総合グラウンドが十字路にある。								
入 植 戸 数 と 人 員 (内 地)	年 度	28	29	30	31	32	33	34	35	36
	戸 数	29	77	71	6	6	6	6	30	35
	人 員									
	年 度	37	38	39	40	41~52		現地入植者	合 計	定着数
	戸 数	4	1	1						252
人 員									1,439	
入 植 世 帯 数			入植世帯数		農家戸数					
			戸 数	人 数	戸 数	人 数				
	日 本 人	居 住	265	1,450	240					
		非居住		-	-					
		計	265	1,450	240					
		昭和56年3月末日								

分級状況	総面積	約150,000 ha
	ロツテ面積	標準20 ha
農	主作目	コショウ、カカオ、マラクジャ
	形態	コショウ-辺削のモノカルチャー農業から、カカオ、マラクジャ、ガラナ等の熱帯果樹や養鶏等を取り入れた複合経営に変わりつつある。
業	農具の普及状況	トラクター1.3台、トラック0.7台
	家畜飼養頭数	肉牛1.6頭、豚3.7頭、羊0.1頭
	営農支援機関	トノアス産農組合農事部、パラ州農付信用長設協会 (EMATER-PARÁ)
	金融機関	銀行 事業団

地区略図



(2) 第2トマス移住地

所在地	パラ州トマス郡 MUNICIPIO DE TOMÉ - ACU, ESTADO DO PARA	
面積	25,600 ha	
経緯	昭和31年トマス産組は、同移住地入植30周年の記念事業として、後続移住者を受入れ、ビメンタの増産を図ることを目的とし、新たな移住地の創設を計画した。この事業は、その後旧移住振興会社が引継ぎ、昭和35年太田パラ州有地の譲渡を受け、直営移住地として移住地の建設が始まった。移住地へは昭和38年に8家族が入植した。現在159家族(568人)が定住している。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	第1トマスと殆んど同じ
社会環境	主要都市への交通手段 市場 近区内道路整備状況 電気 飲料水 公共施設 事業団長助組合・自治体等 その他	トマスと隣接し、昭和48年移住地内にトマス～パラミナス間州道PA 256号線が敷設された事から道路事情は第1トマスに準ずる。ベレーン線バスの定数は1日1便であり、別に十字路、トマス向けは1日2便がある。 第1トマスと同じ 47年に第2トマス～パラミナス間州道PA 256号線が開通し、続いて域内及び第1トマス幹線道路、ゾジャーレ經由州道PA 140号線等が次々と巾目10mアスファルト舗装で完成し、道路状況は良好となっている。域内支線も事業団の手により全線砂利舗装している。 電気は自家発電(110ボルト使用) 電化は目下INCRAにて農村電化計画に折り込むべく検討中。 井戸水(18-25m)豊富な水量がある。 小学校2校、教員宿舎4棟、診療所1ヶ所(医師1名、看護婦3名)、医師宿舎1棟、看護婦宿舎1棟、警察屯所3ヶ所、移住者宿泊所3棟、 総合支所1、公民館1、青年会館1、総合グラウンド1、出立場1、 ベレーン民路よりの巡回指導が随時ある。中学校は地区外トマス町及び十字路に各1校あり、スクールバス(JICA貸与)にて通学している。

入植戸数と人員 (内地)	年度	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
	戸数		8	2	4	17	11				1
	人員		37	16	23	72	42				2
	年度	47	48	49	50	51	52	現地入植者合計		定着数	
戸数	5	2		5	3						128
人員	17	8		17	12						568

主なる出身県名	青森	宮崎	栃木	秋田	東京	山形	群馬	広島	その他	合計
戸数	21	20	7	6	7	5	5	5	48	130

昭和53年10月現在

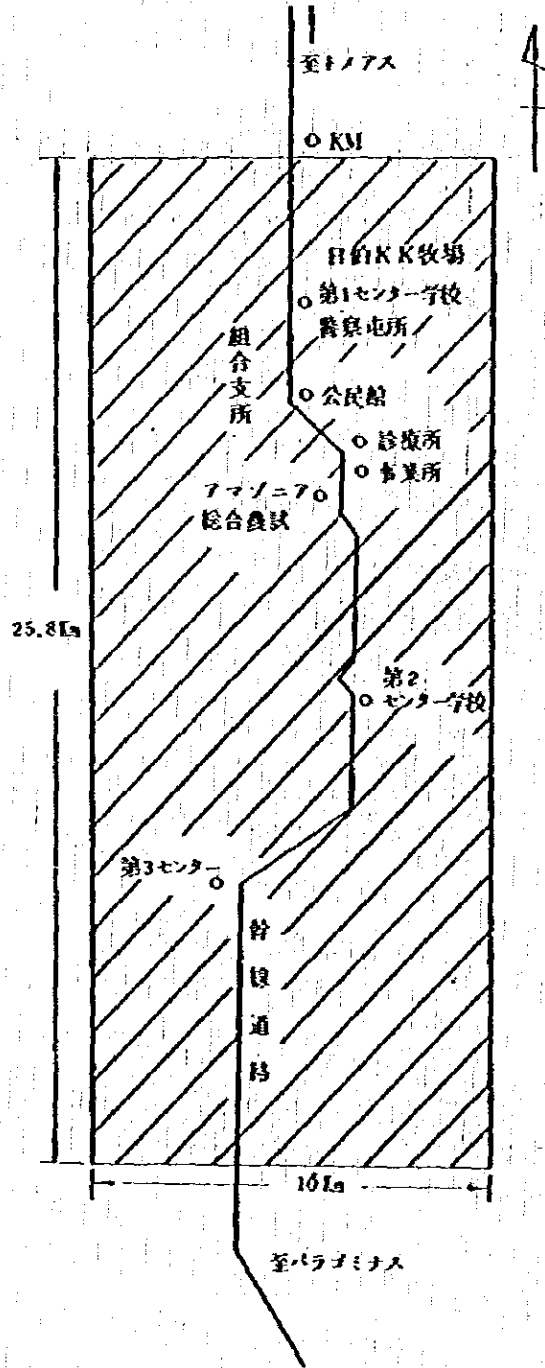
入植世帯数	第二トノアス		入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	居住		126	531	128	
	日本人 非居住 計		31 159	31 568	60 188	

昭和56年4月現在

分譲状況	総面積	25,800ha			
	ロッテ面積	標準25ha			
	分譲条件及び価格	(一括払) 250,000円/25ha 10,000円/ha) (分割払) 頭金10%以上, 最高4年一括置5年払			
	分譲可能面積	24,211.8ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道筋市街地等利用地	除地	
	20,156.5	3,521.3	1,025.2	491	
地権交付	591ロッテ中 取得済231ロッテ 手続中96ロッテ				
	(56年9月末現在)				

農業	主作	コシヨク, カカオ, マラクジャ, ガラナ, ゴム
	形態	第1トノアス移住地と同様にコシヨクのモノカルチャーから複合経営に移行しつつある。
	農具の普及状況	トラクター1.0台, トラック0.6台
	家畜飼養頭数	肉牛0.9頭, 豚2.2頭, ミツバチ0.2群
	営農指導機関	アマゾン熱帯農業総合試験場, 協力機関として北約農業試験場(EMBRAPA) パラ州農村信用促進協会(EMATER - PARA) 連邦カカオ院(CEPLAC) トノアス 産租農事協等 金融機関

移住地略図



(3) グアマ移住地

所在地	パラ州サンタ・イザベル郡、イニヤンガッピ郡 MUNICIPIO DE SANTA ISABEL, INIANGAPI ESTADO DO PARÁ	
面積	33,510 ha	
経緯	グアマ河(アマゾン河の支流)沿いに創設された連邦直営の混合移住地で、当初連邦としてはアマゾン地帯開発の一環としての大教育地帯の造成を考えたものであった。この地区への入植は、昭和30年ベルテラゴム園からの転住者を皮切りに日本からも100戸以上が移住したが、連邦が行うことになっていた排水溝の建設等基本的工事が果されなかったため、移住者の多くが転出したが、現在は道路網の整備、作付転換により安定してきている。	
自然環境	地形	標高0~20m アマゾン河支流のグアマ河右岸 標高10m前後の高台である。また、河沿に500m前後の低湿地が分布している。 地質・土壌 高台は、黄色ラテライト土壌で比較的砂が多い。 植生・林相 再生林、一部原始林、常緑熱帯雨林に枝われ、多種多様な樹種が幾重にも重なって構成されている。 気候 雨期1月~6月 乾期7月~12月 年間平均最高31.8℃、平均最低22.2℃ 年間降雨量2,186mm
社会環境	主要都市への交通手段	ベレーンから、フェリー渡河口(ブジョールを経てアカラ、トマスド向う)カラバルまで陸路62kmアスファルト舗装の州道が昭和49年開通した。
	市場	ベレーン市が消費市場。野菜・果実類はベレーン市へ出荷する。胡椒はベレーン市の商社を通じ輸出している。
	公共施設	公民館
	事業支援	ベルナンブーコ、センター、タカジョース各1小学校がある。
	その他	INCRAの簡易診療所が2ヶ所ある。ベレーン市にあるアマゾニア保健病院等を利用している。
	地区内道路整備状況	タカジョース地区：地区入口より移住地本部まではアスファルト舗装。 ベルナンブーコ地区：近年整備よく良好。 カラバル地区：道路なく水路による。(カラバル地区に在住者1戸のみ)
	電気・飲料水	電気の導入はないが自家発電の農家が多い。飲料水は素掘り井戸。水質は良好。

入植戸数と(内員地)	年度	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
	戸数	31	97		1	1	1						
	人員	105	605		5	5	5						
	年度	43	44	45	46	47	48	49~52	現地入植者	合	計	定	着
	戸数	1							3	135	46		
	人員	1							18	711	213		

主なる出身県名	籍	本	宮	崎	福	島	山	形	福	岡	三	重	その他	合計
戸数		7	7		13		6		4		4		5	46

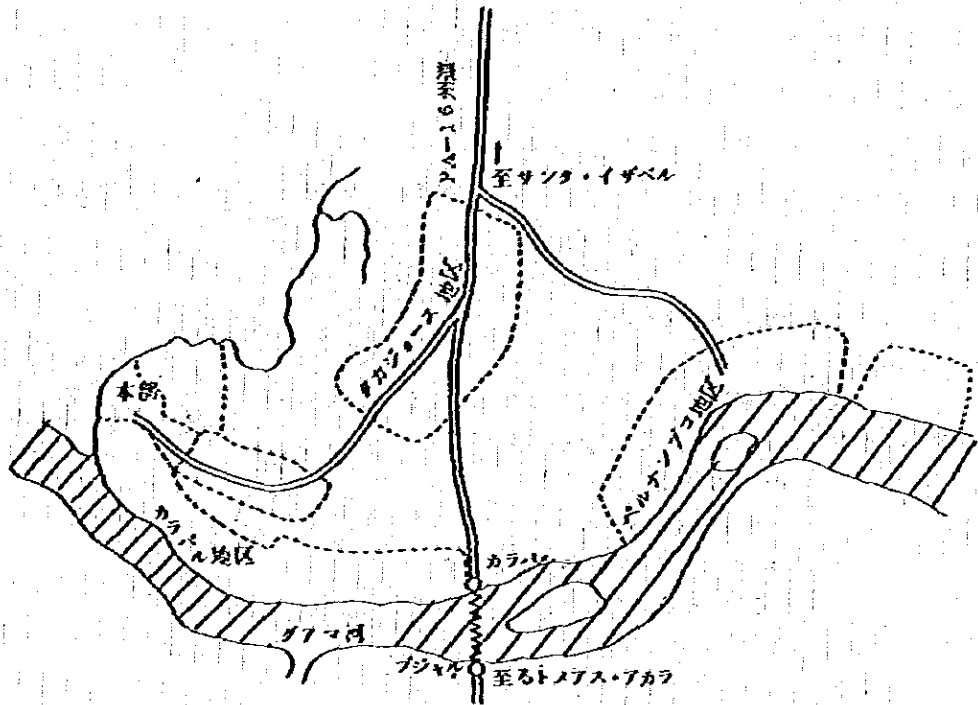
入植世帯数			入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	日本人	居住	41	208	41	
		非居住	5	5	5	
	計	46	213	46		

昭和56年4月末現在

分譲状況	総面積	33,510 ha
	ロッテ面積	25 ha
	分譲条件及び価格	ブラジル植民農地改革院 (INCRA) 分譲条件に準ずる有債実費負担。
	地権取得	取得(日系) 41名 (53年4月末現在)

農業	主作物	コショウ, パパイア, マラクジャ
	形態	タカジョース地区においてはマラクジャ, カカオ, 養鶏, 蔬菜等の組合わせ, ベルナブーコ地区はコショウ, マラクジャ, カカオを主体に牧畜, 蔬菜を組合わせた経営
	農機具の普及状況	トラクター1.6台, トラック0.8台, 動力1.3台, 耕運機0.9台
	家畜飼養頭数	肉牛30.2頭, 役馬0.3頭, 豚0.2頭
	営農支援機関	営農指導 事業団ベレン支部, パラー州農村信用援護協会 (EMATER - PARA) 金融機関 銀行, 事業団 主作物取扱機関 ベレン市の個人売店, 商社

移住地略図



(4) アカラ移住地

所在地	<p>パラ州アカラ郡 MUNICÍPIO DE ACARÁ, ESTADO DO PARÁ</p>
面積	
経緯	<p>グァマ移住地からの転住者受入地として、アカラ郡が州有地の解放を受けて創設した移住地で、別名「パーエス・ガルバリー」植民地」ともいう。 昭和35年K、グァマ・ベルナンブーコ 地区からの転住者23戸を中心に入植した。数年前よりトマス、ペレーン近郊からの転住者が増えつつある。</p>
自然環境	<p>地形 第3紀層段丘地域で平坦な段丘面と段丘をささむ谷からなる地帯である。 地質・土壌 地質は砂岩、頁岩。土壌はラテライト化土。 pH 4.2で酸度強 植性・林相 熱帯雨林で有用材、アカブー、カステニア樹等巨木が密生する。 気 候 雨期12月～6月、乾期7月～11月 年間平均気温 26.6℃ 年間降雨量 3,077.5mm</p>
社会環境	<p>主要都市への交通手段 昭和47年9月、ペレーン市からブラジリア街道経由州道1号線と、昭和49年10月ペレーン市～グァマ～ブジョール～トマス～アカラ線が開通し、陸路による外縁連絡が可能となり、ペレーンとの間1日1往復のバス便もある。 市場 アカラ町は人口5,000人程度のため、ペレーン市を主な消費市場としている。 地区内道路整備状況 州が建設した道路に沿って入植、良好。 域外道路は陸路（アカラ～サンミゲル・ド・グァマ～ペレーンとアカラ～ブジョール～グァマ～ペレーン）が開通。但し、途中2カ所フェリーボートで渡る。 電気・飲料水 電気は導入していないが、自家発電を殆どの農家で利用している。飲料水は良質の井戸水。 公共施設 移住地内に小学校が2校ある。中学校以上はペレーン市、1980年Kアカラ町K病院が建設された。 ペレーン病院による巡回診療がある。</p>

入植戸数と人員 (内地)	年度	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
	戸数	33	20		2						
	人員	15	133		8						
	年度	44	45	46	47	48	49~52	現地入植者	合計	定着数	
戸数									76		
人員									278		

主なる出身県名	福岡	北海道	山形	宮崎	山口	熊本	その他	合計
戸数	10	17	11	6	4	6	17	71

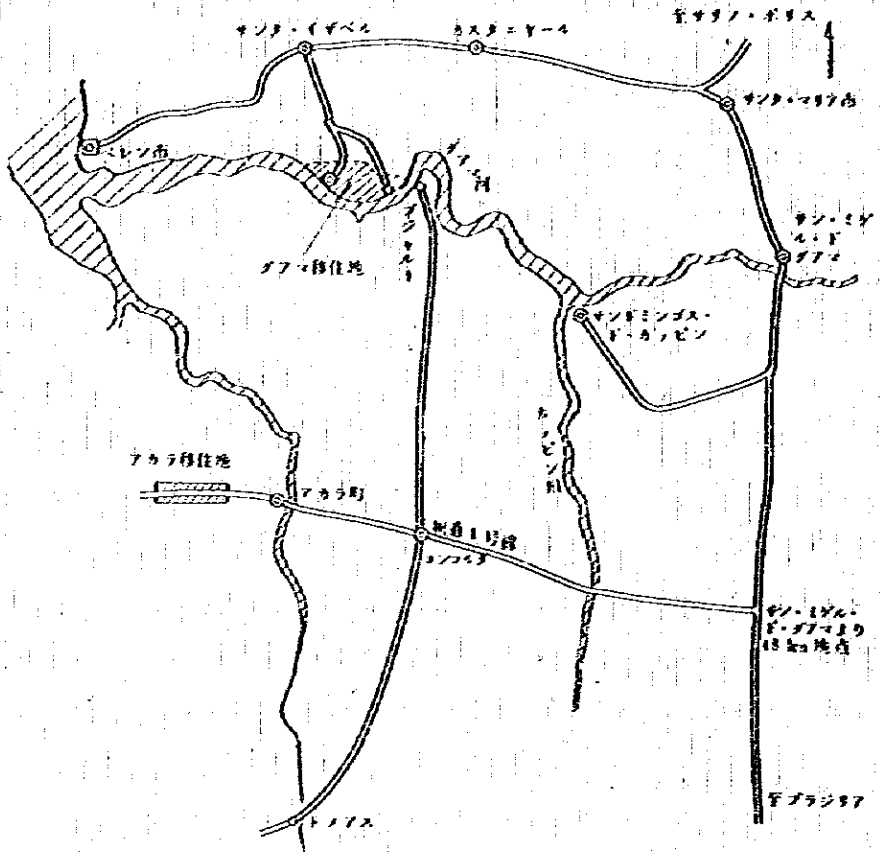
昭和53年10月現在

入植世帯数			入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	日本人	居住	76	278	66	
		非居住	-	-	-	
	計	76	278	66		

昭和56年3月末現在

分譲状況	ロツテ面積 50ha 分譲条件等 グラマ移住者を主体とする既入植者が州と個別契約し、転入植したもので所有地の無償払い下げを受けた。 地権取得 全員取得済
農業	主作目 コシユウ、カカオ、カボチャ 農具の普及状況 トラクター1.6台 家畜飼養頭数 豚2.6頭、山羊0.1頭 営農指導 事業団ベレーン支部、同支部アマゾン熱帯農業総合試験場、パラ州農村信用民衆協会 (EMATER - PARA) 金融機関 銀行、事業団

地区略図



(5) モンテ・アレグレ移住地

所在地	パラ州モンテ・アレグレ郡モンテ・アレグレ町 MUNICÍPIO DE MONTE ALEGRE ESTADO DO PARÁ	
面積	300,000 ha	
経緯	日本人受け入れは、昭和28年(1958年)から開始された。連邦直営の混合移住地である。日本人入植者は日本から直来その他、ベネテラ・ゴム園からの転住で、一時は相当数に達したが、市場が狭く、また充分な子弟への教育が行われない等の理由から、多数の転住者を出した。アマゾン開発の影響もあって、かつての遠隔地と言う感覚が少なくなっている。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	起伏に富んだ丘陵地で、丘陵間に平地や2~3の川が流れている。 テラ・ロッサが散在しており、地味は良い。 平地には熱帯性林が繁茂し、有用林も比較的多い。 雨期 1~6月、乾期 7~12月 年間平均降雨量1,301.5mm、平均最高37.8℃ 平均最低19.0℃、年平均28.1℃
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備 状況 電気 飲料水	地区よりモンテ・アレグレ町間は、無装束であるが雨期でも交通の途絶することは無い。アマゾン南岸のサンタレーン市までは水路109km、定期便で8時間かかる。水路で650kmのベレン市には、定期船が週3回程度運行されている。飛行便は大型機が週に1往復している他に、小型機(テコ・テコ)もベレンより直行している。モンテ・アレグレ市場及びサンタ・レーンその他へ出しているが、現地商人への販売を余儀なくされている。ただしバナナはベレンの会社を通じ輸出されている。蔬菜はサンタ・レーンおよびマナウスへ出荷販売している。 移住地事務所が積極で道路整備をしているが、テラ・ロッサのアサイザル地区は雨期ともなると交通困難となる。 電気は導入されていないが、自家発電の農家がある。 飲料水は井戸水を使用しており水質は良く量も豊富である。

入植戸数と (内地) 人員	年度	28	29	30	31	32	33	34		38	39	40	41
	戸数	24	43				3			2		1	1
	人員	150	264				19			2		1	1
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49~53	現地入植者	合計	定着数	
	戸数			1		2				59	136	26	
	人員			1		2		2		354	806	131	

主なる出身県名	高知	群馬	東京	長崎	熊本	北海道	その他			合計
戸数	3	2	3	3	2	2	11			26

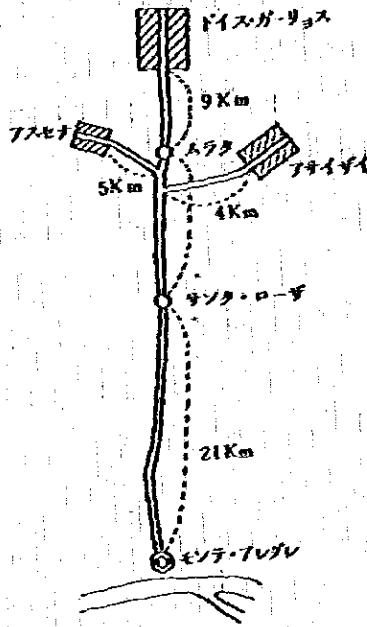
入植世帯数			入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	日本人	居住	29	130	26	
		非居住	4	4	—	
計		33	134	26		

昭和56年3月末現在

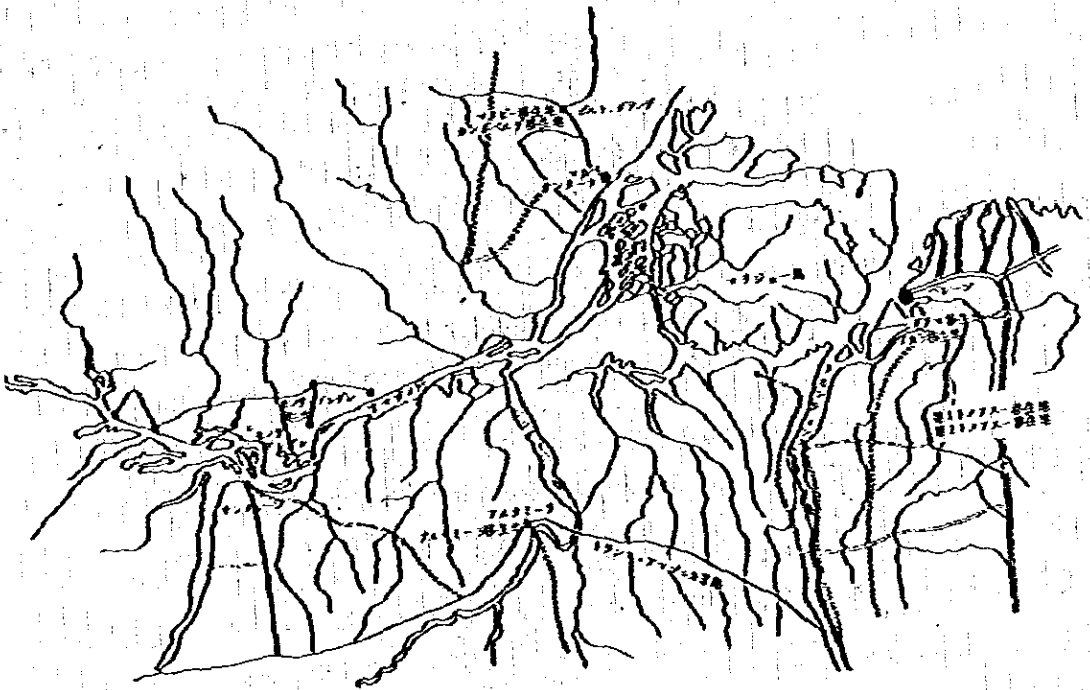
分譲状況	総面積	360,000ha
	ロッテ面積	30ha
	分譲条件および価格	ブラジル植民地改革院(INCRA)の分譲条件による。
	地権取得	取得21ロッテ 申請中8ロッテ(但し非居住者を含む) 昭和53年10月現在

農業	主作態	コショウ、トマト、トウモロコシ コショウの単作経営のほか、牧畜、雑作、野菜等の組み合わせで営農が進められている。
	農具の普及状況	トラクター0.9台、トラック0.5台
	家畜飼養頭数	肉牛75.6頭、役馬1.3頭、豚1.2頭
	その他	旧海協連時代より継続して設置されていたモンテ・フレグレ農場は1966年(昭和41年)8月第2トノアスへ移転し、邦人移住者で構成するサンタ・ローザ農牧協会に譲渡し、共同牧場として利用されている。

移住地略図



地区略図



(6) アルタミーラ移住地

所在地	パラ州アルタミーラ郡及びプライニト郡 MUNICÍPIO DE ALTAMIRA, MUNICÍPIO DE PRAINHA, ESTADO DO PARÁ	
面積	201,200 ha	
経緯	以前は全く未開の原始地帯であったが、政府により国家統合計画が実施されるに伴い、INCRA(ブラジル植民農地改革院)は、同計画によって建設されたトランスアマゾニカ道路沿線を5分轄し、造成された植民地の1つである。アルタミーラ郡への日本人入植は、昭和37年ベレーン近郊からの転住が最初で、同移住地への入植は昭和45年からである。	
自然環境	地形	波状形の起伏に富んだ地形を呈し、シグー川、イリリ川に注ぐ小川が多数入り込んでいる。高台は平坦を呈している。
	地質・土壌	テラロシ土壌が広く分布しており、この地赤黄色ポドゾルも分布している。 テラロシ土 pH = 5.9 ~ 6.7
	植生・林相	常緑熱帯雨林に枝われ、多種多様な樹種が幾重にも重なって構成されている。
	気象	雨期 12 ~ 6月、乾期 7 ~ 11月、気温平均最高 30℃以上、平均最低 20 ~ 21.4℃ 年間降水量 1,696 mm
社会環境	主要都市への交通手段	アルタミーラ～マラバー間 1日3往復、アルタミーラ～イタイツーパー間 1日1往復、また移住地内 112 地点まで 1日1往復がある。トランスアマゾニカ道路も、アマゾン開発の大動脈として活用されつつある。完全な飛行場があり、ジェット機の発着も出来る滑走路を持っている。飛行機便は毎日ある。 アルタミーラ市人口 1万人、東北東陸路 90 km、サンタレーン市人口 10万人、北東陸路 560 km
	市場	アルタミーラ及び近傍都市が消費市場であるが、市場の狭さ及び品不足による価格上昇のあった場合、サンパウロ物が流入し、市場がかく乱される。
	地区内道路整備状況	地区内 112 地点にトランス・アマゾニカ道路が通っている。
	電気	市内には電力会社があり、配線は市内全域に完了している。
	飲料水	入植者の大部分は湧水、小川等の水を飲料水としている。
	公共施設	診療所があって、週に 1 回医師、歯科医の診療がある。 小学校 2 校、中学以上は町庁寄宿
	その他	連邦道路局 (DNER) は、ここ 2 年間の内 112 地点にトランス・アマゾニカ全線開通計画をたてている事を発表しており、移住地の発展が期待される。

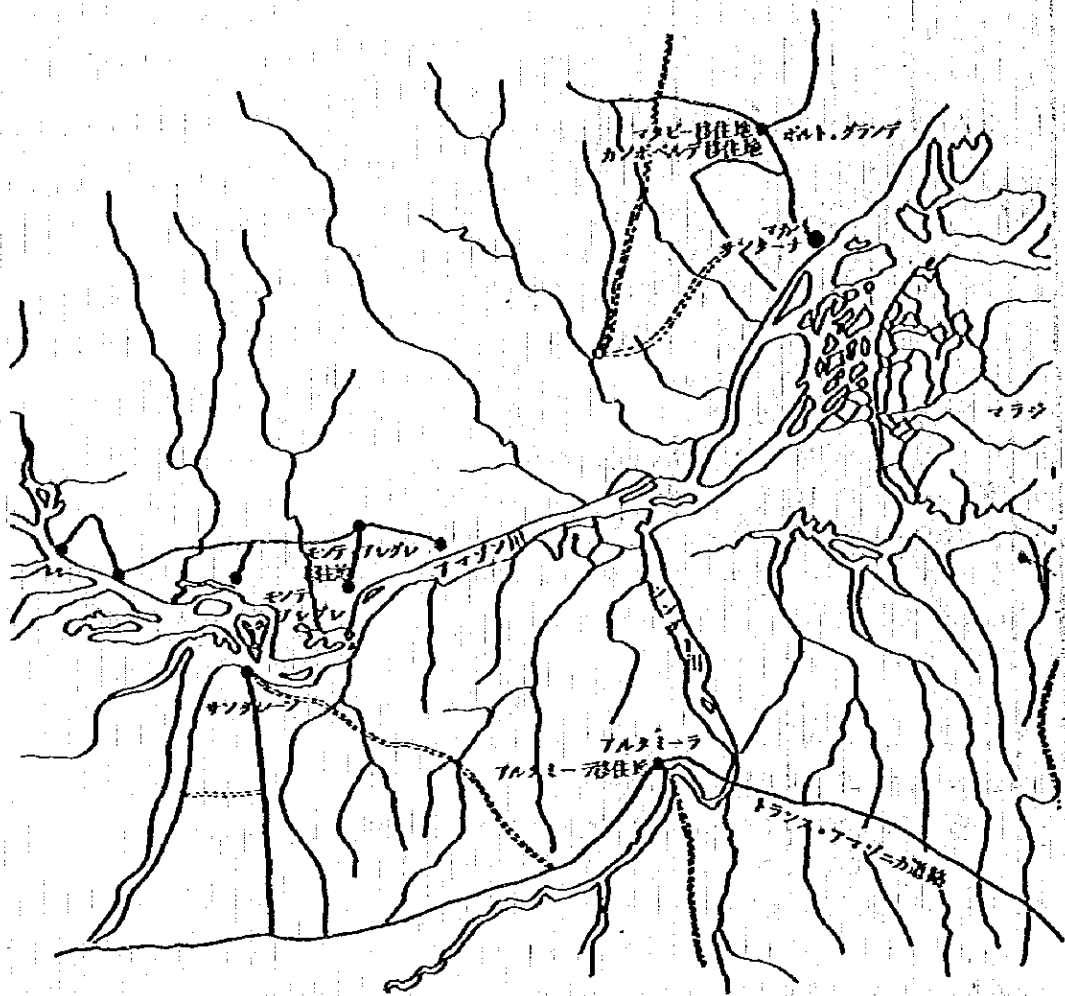
入植戸数と (内地)人員	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数												
	人員												
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49	50~52	現地 入植者	合計	定着数
戸数				1	3	14	4	3					33
人員				6	18	74	24	18					131

入植世帯数	アルタミーラ		入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	日本人	居住 非居住 計	33	131	26	
			—	—	—	
			33	131	26	

昭和56年3月末現在

分譲状況	総面積 ロッテ面積 分譲条件および価格 地権取得	201,200 ha (造成済のみ) 100 ha ブラジル植民農地改革院 (INCRA) の分譲条件による有償 全戸取得済
農 業	主 作 目 形 態 農具の普及状況 家畜飼養頭数 営農支援機関 営農指導 金融機関 主作物の販売取扱 関 そ の 他	サトウキビ、コショウ、バナナ サトウキビ、コショウ専業ないし、これらと野菜との複合経営 トラック1.0台、トラクター1.1台 肉牛4.6頭、乳牛0.3頭 INCRA、パラ州農村信用援護協会 (EMATER - PARA) 事業団ベレーン支部 銀行、事業団 サトウキビはCOTRIJUI製糖工場が全量を買上げ、穀物はCIBRAZEN で全量買上げ。野菜類はアルタミーラ市またはサンタレオン市に卸す。 INCRAが昭和49年に製糖工場を設立採買し、その後片断の組合の経営に 移り、サトウ・アルコールを生産している。

地区略図

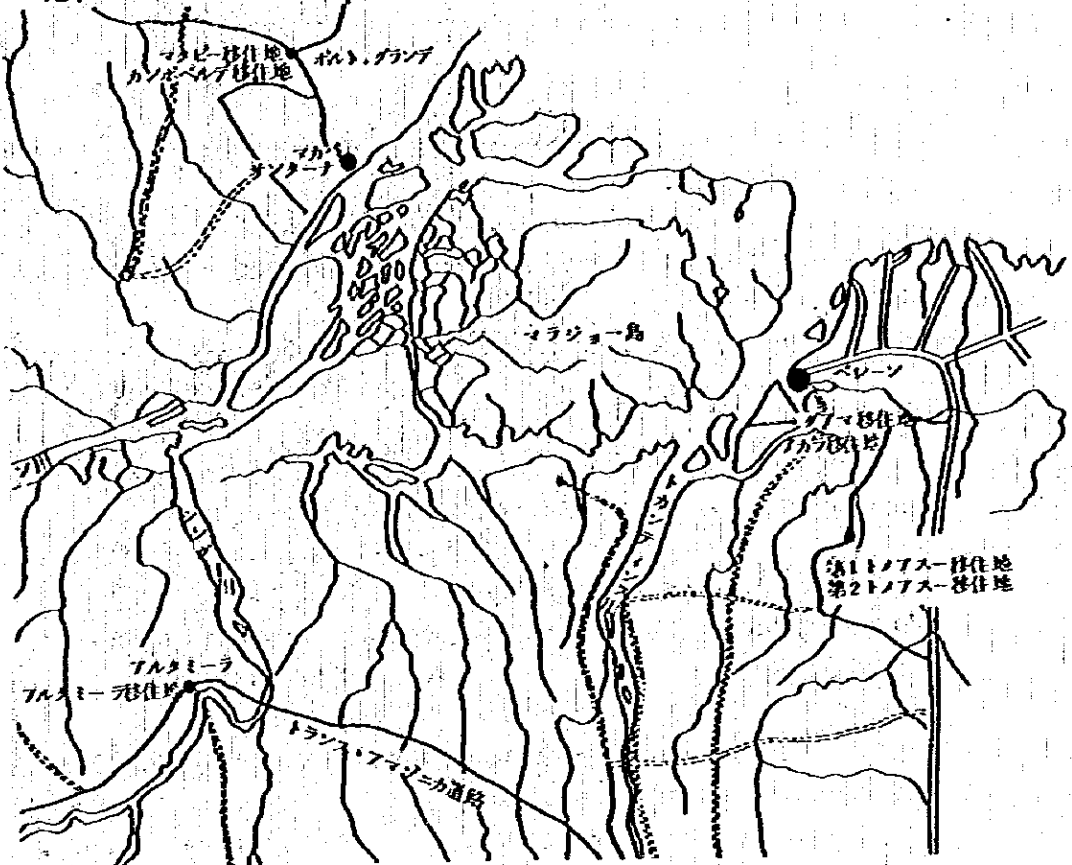


(7) マタビ・カンボベルデ及びマカパー市近郊（アマパー州）

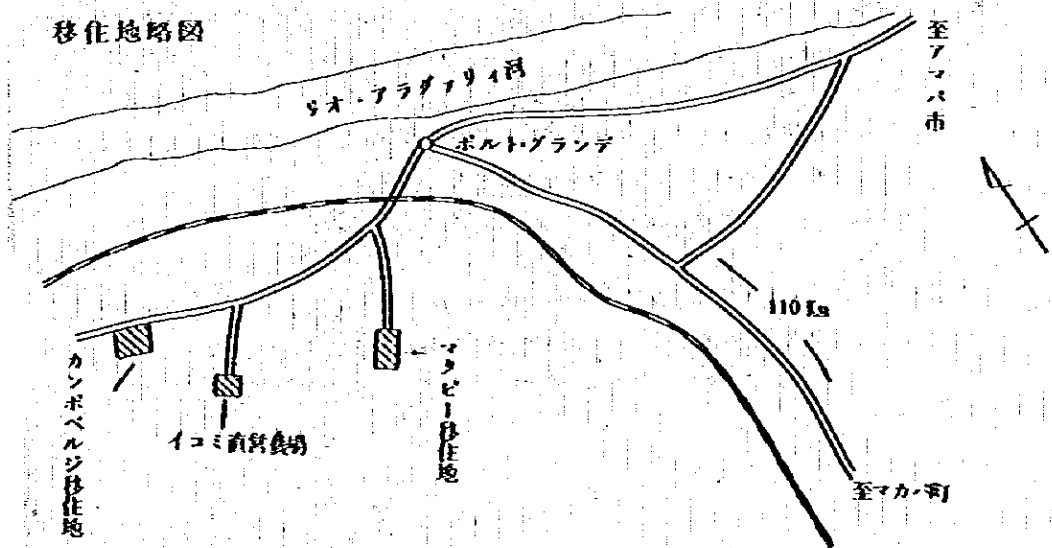
所在地	アマパー直轄州マカパ郡 MUNICÍPIO DE MACAPÁ, TERRITÓRIO FEDERAL DO AMAPÁ	
面積	4,875ha	
経緯	<p>マタビはアマパー直轄州の農業振興、およびマカパ市の食料供給の目的をもった直轄州直営移住地として創設された移住地である。日本人の入植は、昭和28～29年にかけておこなわれ45世帯が入植した。だが、当地でゴムの植付強制から負金的困難になり多数の転住者を出した。</p> <p>一方カンボ・ベルデは、昭和32年マサゴン移住地より昭和37年転入し、ICOMI 鉱山従業員に対する野菜を供給する目的で営農されていたが、その後ICOMI 鉱山の縮小等もあり現在2戸のみ在住している。</p>	
自然環境	地形	花崗岩片麻岩その他の古期岩類の石段からなる洪積世の石段層の台地は極めて平坦だが、谷をのぞむ所は急な傾斜になっている。
	地質・土壌	土壌は砂礫質のラテライト化、pH = 4.2、テラ・フィルム地である。
	植生・林相	草地帯と森林地帯との分岐地点にあたる森林の中に位置している。
	気候	雨期1～8月、乾期9～12月、年間平均降水量3,000mm、気温平均最高33.5℃、平均最低21.5℃、年平均25.5℃
社会環境	主要都市への交通手段	マカパ市～セーラ・ナブイウ鉱山間230kmにはICOMI 鉄道が走っておりマタビ移住地はその中間に位置している。又、カンボ・ベルデ移住地北岸横断道路が貫通している。マカパ市から移住地人口までは草原で、雨期にも交通不能になることはない。
	市場	マカパ市～ベレーン市間には毎日2便の航空便がある。（約1時間）。 マカパ市ICOMI 鉱山、BRUMASA 合板会社その他発電道路工事会社を対象としている。
	地区内道路整備状況	カンボ・ベルデ移住地区をベルトラル・ノルテ国道が開通している。
	電気 飲料水 公共施設	電気は導入していない。ただし自家発電の農家もある。 飲料水は井戸（兼製）水を利用している。水質は良好である。

入植戸数と (内地 人員)	年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40																											
	戸数	29	21		7	1	1		3	2																															
	人員	177	123		42	1	1		3	2																															
	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49~52	現地入植者	合 計	計定着数																												
戸数												64	46																												
人員												319	220																												
<table border="1"> <tr> <td>主なる出身地名</td> <td>鹿児島</td> <td>福 島</td> <td>宮 城</td> <td>熊 本</td> <td>福 岡</td> <td>広 島</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>その他</td> <td>合 計</td> </tr> <tr> <td>戸 数</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5</td> <td>30</td> </tr> </table>														主なる出身地名	鹿児島	福 島	宮 城	熊 本	福 岡	広 島						その他	合 計	戸 数	9	5	2	5	8	1						5	30
主なる出身地名	鹿児島	福 島	宮 城	熊 本	福 岡	広 島						その他	合 計																												
戸 数	9	5	2	5	8	1						5	30																												
昭和56年9月末現在																																									
入植世帯数	<table border="1"> <tr> <td>自 本 人</td> <td>居 住 非居住 計</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		自 本 人	居 住 非居住 計			入植世帯数		食家戸数																																
			自 本 人	居 住 非居住 計																																					
戸 数	人 数	戸 数	人 数																																						
			46	220	23		昭和56年9月末現在																																		
分譲状況	総 面 積		4.875ha																																						
	ロッテ面積		30ha																																						
分譲条件および価格			有償INCRA基準に準ずる																																						
農 業	主 作 目		コシユウ、パイナップル、そ菜、養鶏																																						
	農 形 態		稲穀のほか、そ菜及び養鶏を組み合わせた経営																																						
	農具の普及状況		トラクター0.6台、トラック1.3台、耕運機0.9台																																						
	営農指導機関		事業団ベレーン支部、州農務局、農村信用共済協会 (EMATER - AMAPA)																																						
金融機関		銀行、事業団																																							

地区略図



移住地略図



(8) サン・ルイス近郊(マラニオン)移住地

所在地	マラニオン州 ESTADO DE MARANHÃO	
面積		
経緯	<p>マラニオン州政府は市民に蔬菜、鶏卵等食品を豊富に供給する事を目的として、日本人移住者導入を計画した。</p> <p>昭和35年7月に、ロザリオに19家族が入植したが、マラニオン州への日本人移住の始まりである。そして翌年昭和36年、ムルナイ地区にマラニオン州と日本政府との協定による養鶏移住者10家族が入植した。</p> <p>その後、ロザリオ地区より転住し、サンタフェ、エストラーダ・ノーバ地区等に分散して、トマトを中心とした蔬菜栽培にマラクジャ、ハワイパイナップルなどをあわせて営農がなされている。</p>	
自然環境	地形	一般に台地状の平坦地である標高4m
	地質・土壌	一部高台には粘土量の多い所もあるが、全体的に第3紀層に属する砂埃土で透水性が良い。 pH 4
	植生・林相	殆どが再生林で、パプーヤンが相当数あるが、他は灌木林で乾燥型植生である。
	気候	雨期1月～6月 乾期7月～10月 最高平均気温 33.5℃ 最低平均気温 21.5℃ 年間平均気温 26.5℃ 年間平均降雨量 1,818mm
社会環境	主要都市への交通手段	国道BR316号線の開通により、海岸環状線の宿命的存在となり、交通は便利である。パラ州よりここを経由、リオ・デ・ジャネイロ、サン・パウロに至る定期バスも運行している。
	市場	通商事情もよくなり市場開拓も可能となったが、生産力がなく旧態然としてサン・ルイス市(人口40万人)のみを市場としている。
	地区内道路整備状況	私道、村道、州道、国道があり交通は良好である。
	電気	電気は導入されていない、ただし自家発電の農家がある。
	飲料水	飲料水は、井戸水(表面井戸)を利用しており、水質は良い。

入植戸数と 人員 (内地)	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数						19	10					
	人員						111	52					
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49~52	現地入植者	合計	定着数	
	戸数				1							31	
	人員				3							141	

入植世帯数			入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	日本人	居住 非居住 計	31	111	20	

昭和56年9月現在

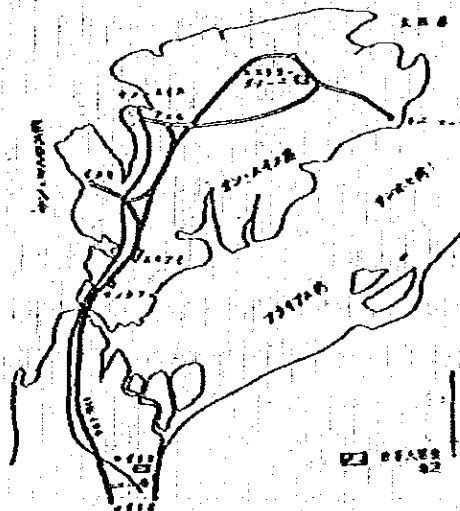
分譲状況
ロケテ面積
分譲条件および価格
地権取得

10 ~ 30 ha
州有地 実費有償
取得17名

昭和53年10月現在

農 業	主 作 目 態	パパイヤ、トマト、スイカ、ケイラン 養豚専業農家のほか、トマト、スイカ、ピーマン等の蔬菜経営、パパイヤ、マラクジャ、ココヤシ等の果樹経営の専業及びこれらの部門の複合経営
	農具の普及状況	トラック0.7台、トラクター0.5台
	家畜飼養頭数	豚0.9頭、肉牛0.2頭
	営農指導 金融機関	事業団ベレーン支部、州農務局、農村信用保護協会 銀行、事業団

地区略図



(9) エフゼニオ・サーレス移住地

所在地	アマゾン州マナウス郡 MUNICÍPIO DE MANAUS, ESTADO DO AMAZONAS	
面積	3,408.6 ha	
経緯	アマゾン州の農業振興、およびマナウス市への生鮮食料品の供給を主目的として、州が創設した日伯混合の移住地である。日本人の入植は昭和33年から開始された。 この移住地の営農は胡椒を中心とし、蔬菜、養鶏等を組合せたものである。マナウス市からイタコチアラへ通ずるアスファルトの州道が地区内を横貫するため極めて恵まれた立地条件がある。	
自然環境	地形	標高50～100mの起伏に富む地形で、地区内の起伏はかなり大きい。
	地質・土壌	第3紀層を母岩とするラテライト土壌で、灰褐色および灰褐色の礫を含まない粘土含量の高い重粘な土柱で土質は深いテラフィノ地帯である。一般に酸性は強い。
	植生・林相	熱帯雨林に枝われ、多様な樹種が幾重にも重って構成される原始林を形成し、有用材も多く林相は比較的密である。
	気候	雨期12月～5月、乾期6月～11月 気温平均最高27.8℃ 平均最低22.6℃ 平均年間降雨量2,100mm
社会環境	主要都市への交通手段	移住地内をアスファルト舗装のマナウス～イタコチアラ州道が走っており、移住地中心部までバスの便がある(1日5往復)。その他農産物の出荷トラック便も頻繁にあり利用できる。
	市場	消費市場マナウス市人口62万、ボリヴィア、ペルー、コロンビア、ベネズエラ等への貿易拠点となっており、近年「ZONA FRANCA(非関税地域)」の指定を受けたことから経済は活気を呈しており、移住地も諸々の恩恵を受けている。
	地区内道路整備状況	全戸アスファルト舗装の州道沿いもあり極めて恵まれている。
	電気	昭和52年3月に事業団の援助により農村電化が完成した。
	飲料水 公共施設	飲料水は、事業団の援助の共同井戸を利用している。
事業団長 組合自治体等	深井戸4基、水槽2塔、その他配水設備、共同販売所(在マナウス) 事務所兼販売所、倉庫、車庫、乾燥場、解体処理場、ガソリンスタンド、職員住宅、労働者住宅等各1棟、車庫3台、土地10,000m ² この総自治会が自治会館1棟。	

入植戸数と (内地) 人員	年度	33	31	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
	戸数	17	6	16	17	2	2						
	人員	108	30	95	96	9	5						
	年度	45	46	47	48	49	50~53	現地入植者	合計	定着数			
戸数						2	6	69	45				
人員						2	32	376	252				

主なる出身県名	石川	長崎	熊本	福岡	青森		その他	合計
戸数	9	8	7	5	3		13	45

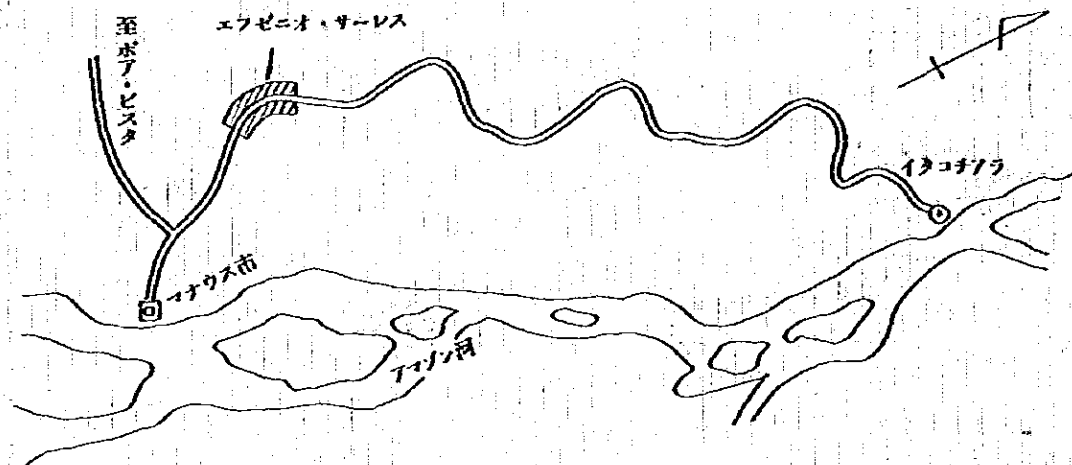
昭和53年10月現在

入植世帯数			入植世帯数		農家戸数		昭和56年3月末
			戸数	人数	戸数	人数	
	日本人	居住	49	248	49		
非居住							
		計	49	248	49		

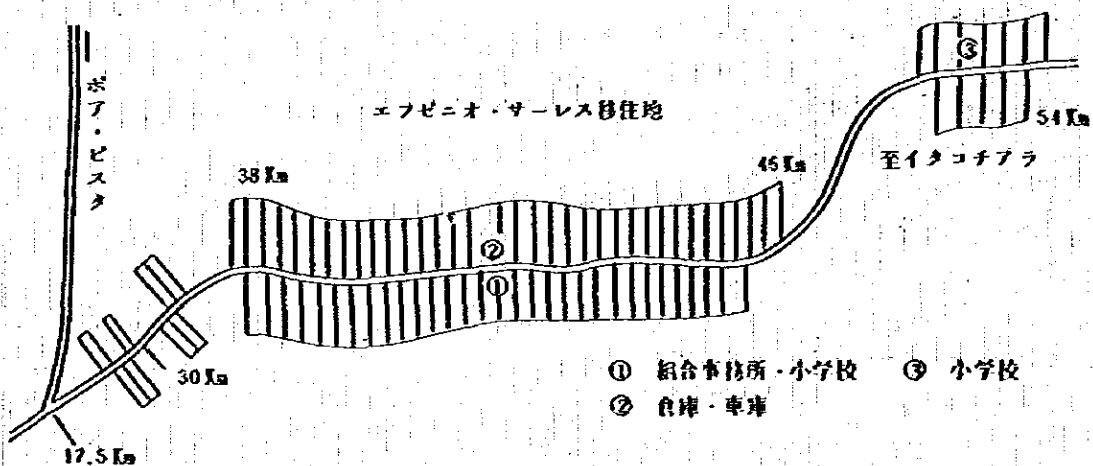
区分状況	総面積	3,408.6ha
	ロッテ面積	25ha
	分譲条件および価格	INCRA極北事務所のマナウス奥地開発計画対象地域で、原則として土地購入は競争入札制によることとなっている。既存入植者については優先権を認め、INCRA所定の土地代計算を行い価格決定している。(平均土地価格×面積×土地係数×占有期間係数)+測量費等の直接経費
地権取得	取得32ロッテ	昭和53年10月現在

農	主作目録	カンキョウ、トマト、ピーマン 養鶏(採卵及び肉用)の単一経営ないし、これを主体に養菜及び柑橘を組み合わせた経営
	農具の普及状況	トラック1.0台、トラクター0.6台、ブルドーザー0.1台、耕運機1.1台
	家畜飼養頭数	豚7.1頭、肉牛0.2頭
	営農保護機関	事業団ベレーン支部、同支部マナウス支所
	営農指導 金融機関	アマゾンナス州農村信用保護協会本部 銀行、事業団
主産物の販売取扱機関	組合員は農協、非組合員は特約業者	
その他	各ロッテとも一部を除き地形が悪く利用可能面積が狭く種々問題があるが、入植地を貫通するマナウス市からイタコチアラ市へ通ずる州道がアスファルト道路となっている利点を生かし、そ菜・鶏卵でかなりの収益を挙げている。	

地区略図



移住地略図



00 ベラ・ピスタ移住地

所在地	アマゾン州マナウス郡及びマナカプル郡 MUNICÍPIO DE MANAUS, MUNICÍPIO DE MANACAPURÚ, ESTADO DO AMAZONAS 州都マナウス市より移住地本部まで約100km(マナウス市対岸)
面積	15,000 ha
経緯	アマゾン中流地域の開発を目的として創設された連邦直営の混合移住地で、日本人の入植は昭和28年から開始され、翌29年までに153家族が入植したが、営農形態が確立されておらず、受入態勢も整っていなかったことから多くの転出者を出した。転出者の多くは、ベレン近郊地域および南伯方面へ移転した。 その後昭和32年に「アリアウ地区」に14家族を受入れた。昭和42年マナウス地区の自由貿易港化のため、マナウス市の人口急増、経済活動の活性化とともに養鶏事業による鶏卵・鶏内の市場供給が増大したほか、蔬菜の需要も多くなっている。 アマゾン開発基地としてのマナウス市の発展とともに、その食糧供給基地として移住地の将来は明るい。
自然環境	<p>地形 標高12~20m。第3紀層を母岩とするゆるやかな起伏のある比較的平坦な段丘地形と、段丘をきざむ谷とからなる、傾斜やや急、地質は第3紀層の砂岩、頁岩の段丘及び谷底の沖積層。</p> <p>地質・土壌 土壌はラテライト土壌で砂質土。土色は黄褐色ないしは茶褐色を呈す。崖残に一部テラ・プレッタがあり、高台は概ね、テラ・フィルムで一般に強酸性土壌である。</p> <p>植生・林相 熱帯常雨林地帯に属し、直径1m以上の巨木が散在し、林相はやや疎である。</p> <p>気候 雨期12~5月、乾期6~11月、年間平均気温31.4℃、最高気温37.8℃ 最低気温22.6℃、年間平均降水量2,100mm</p>
社会環境	<p>主要移市への交通手段 州都マナウス市の対岸、ベレイラ港より15km地点にある移住地本部を中心に、邦人が入植している。カカオベレイラ、カルデロン、アリアウの3地区が、T字型に展開している。マナウスよりの距離は、直線にして約100kmで、その間に流れる河巾6kmのリオネグロは、昭和47年9月よりフェリーボートが就航し、現在1日に5便ある。港より移住地区を8m幅砂利道が貫通、定期バス便(カカオベレイラ~マナカプル市)1日1往復、但し土・日曜日は2便運行している。出荷物は庭先よりトラックにてそのまま採集できないで、マナウス市場に直接出荷している。</p> <p>消費市場 マナウス市 人口62万 ボリヴィア、ペルー、コロンビア、ベネズエラ等は勿論、遠くソヴィエト、北欧との貿易(主として輸入)拠点ともなっており、日本船も月1便の割合で入港している。その上、工業団地に建設された発電機、軽工業関係の組立工場に働く人達で人</p>

社 会 環 境	地区内道路整備 状況	<p>口は急速に増加しており、農産物の需要力を一段と高めたため、特に野菜類は恒常的欠乏状態にある。</p> <p>自由港地域として非関税とされる商品は、一般雑貨の外、カメラ、テレビ等の耐久消費財も含まれるが、酒、タバコ、香水その他ぜい貨品は除外され、乗用車も除外される。農業生産用機械等は当然免税であり、この点生産者には有利である。</p>
	電 気 飲 水 公 共 施 設 事業団援助 その他	<p>各戸自家発電</p> <p>10 m内外の掘抜井戸また湧水を利用。水質は普通。</p> <p>公民館、マナウス市に寄宿舎があるほか、特約医がいる。</p> <p>INCRA、長協による巡回診療がある。</p> <p>INCRA 経営小学校3校、警察屯所</p>

入 植 戸 数 と (内 地 人 員)	年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	戸数	24	102		4				2	1	14	1		
	人員	118	579		21				2	1	84	1		
	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49	現地入植者	合 計	定 着 数	
	戸数			1				1	1	2		153	32	
人員			1				2	5	19		863	184		

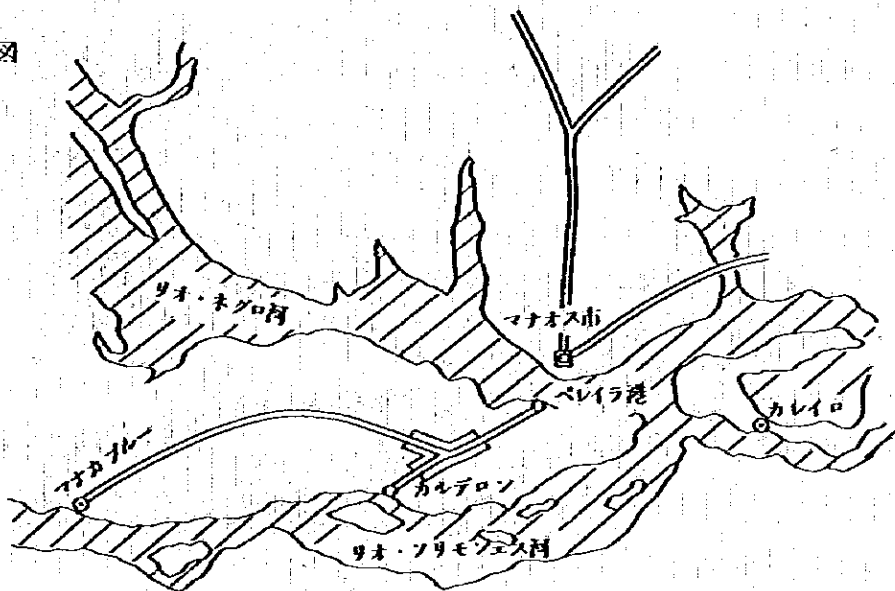
入 植 世 帯 数			入植世帯数		農 家 戸 数		昭和56年3月末
			戸 数	人 数	戸 数	人 数	
	日 本 人	居 住	32	184	32		
		非居住	-	-	-		
計		32	184	32			

分 譲 状 況	総 面 積	15,000ha
	ロッテ面積	平均50ha
地 権 取 得	分譲条件及び価格	無償(但し、重量その低諸経費自己負担)
		全戸取得済

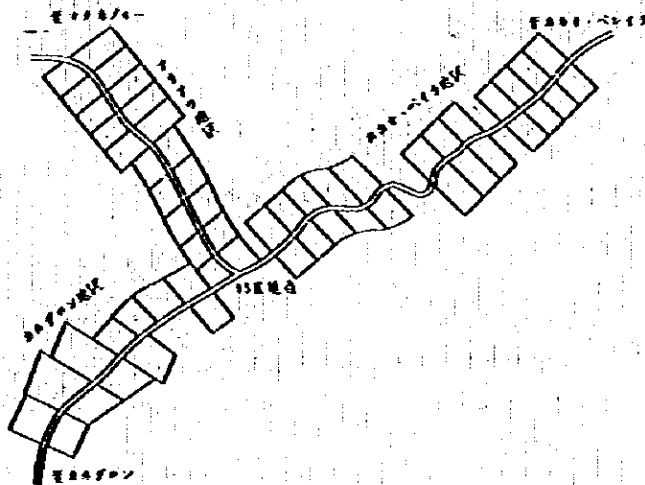
農 業	主 作 目	養鶏、ピーマン、ガラナ、コショウ
	農 形 態	養鶏の専業経営のほか、ガラナ・コショウ・パイパー・蔬菜・養鶏の複合経営
家 畜 飼 養 頭 数	農具の普及状況	トラクター0.6台、トラック1.3台、耕運機0.4台、動力0.8台
	畜 養 頭 数	数20.5頭
畜 養 頭 数	畜 養 頭 数	

農業	管農指導	事業団ベレーン支部及び同支部マナウス支所
	金融機関	アマゾン州農村信用長護協会カカオベレイラ駐在員事務所等
	主作物取扱機関	銀行、事業団 個人別、グループ別に夫々特約店（郵筒、小売店、スーパーマーケット、ホテル等）を持ち定期的に仕出荷している。

地区略図



移住地略図



00 トレーゼ・テ・セテンプロ移住地

所在地	ロンドニア州 ESTADO DE RONDÔNIA		
面積	1,570 ha		
経緯	同州の農業振興並びにポルト・ベリョ市の市場供給を目的として、昭和28年に直轄州直営で創設された混合移住地である。日本人移住者は昭和29年に初めて入植した。その後間もなくゴム園失火の為に転住者を出し、没落苦悶の状態であったが、ポルト・ベリョ市の発展に伴ない同地区の墾殖、ブローラー、農産物の需要も伴い漸く基礎が固まりつつある。一方、国道361号線の開通により、南産物の移入も増加しつつあり、これに対応するため永年性作物や畜産等の多角経営が検討されている。		
自然環境	地形	第三紀層段丘地域で平坦な段丘をさざむ谷、標高12~20m傾斜急である。	
	地質・土壌	地質は第三紀層の砂岩、頁岩。段丘をさざむ谷底の沖積層、土壌はラテライト土壌で砂質土、土色は黄褐色から褐色を呈す崖端に一部テラ・ブレッタ黄色土があり高台はテラ・フィルム、一般に強酸性土壌である。	
	植生・林相	熱帯降雨林地帯に属し、樹高30mを越す巨木も見られ建築用材豊富、林相密で深い。	
気候	雨期11月~4月、乾期5~10月、平均最高気温33℃、平均最低15℃、平均年間降雨量2,292mm		
社会環境	主要都市への交通手段	ロンドニア州都ポルト・ベリョ市より同地区入口まで9km、日本人移住地まで11kmあり、その間は事業団貨物トラック、農務局トラック定期便および日本人入植者の農産物出荷車(個人車)が毎日走っている。	
	市場	ポルト・ベリョ市を市場とし、入植者が生産する卵、および農産物は同市場で夫々100枚、70枚を占めている。	
	地区内道路整備状況	無舗装であるが道路状態は良好である。 連邦政府ないし郡の機械により年2回修繕をするが、その際入植者は労務を提供している。	
	電気	1977年(昭和52年)2月に電化した。	
公共施設	飲料水	飲料水は井戸(深さ約10m)の水を利用しており水質は良い。	
	学校	小学校は地区内にあるが中学校以上はポルト・ベリョ市に通学する。 医療施設はポルト・ベリョ市の慈善病院を利用している。また、事業団医師が巡回診療を行っている。	

入植戸数と 人員(内地)	年度	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	戸数	29							2				
	人員	171							8				
	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49~52	現 地 入植者	合 計	定着数
戸数										31		22	
人員										182		131	

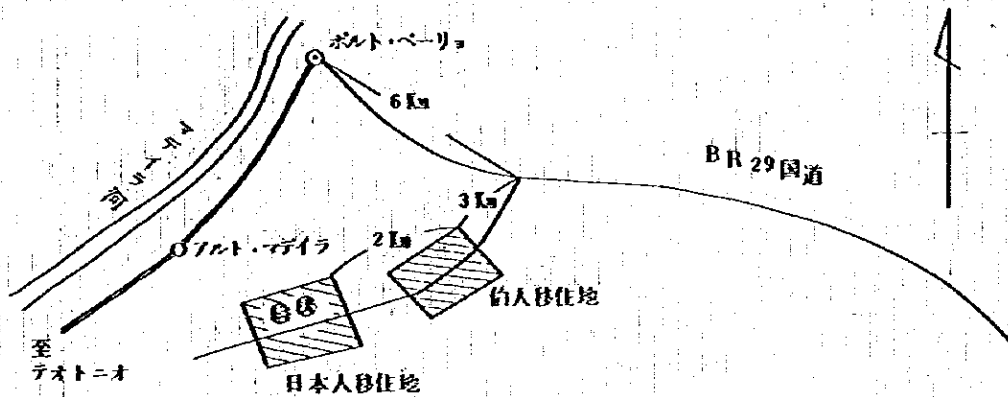
主なる出身県名	熊本	山形	東京					その他	合計
戸数	5	3	2					12	22

入植世帯数			入植世帯数		農家戸数		昭和56年3月末現在
			戸数	人数	戸数	人数	
	日本人	居住	22	135	11		
		非居住	8	41			
		計	30	177	11		

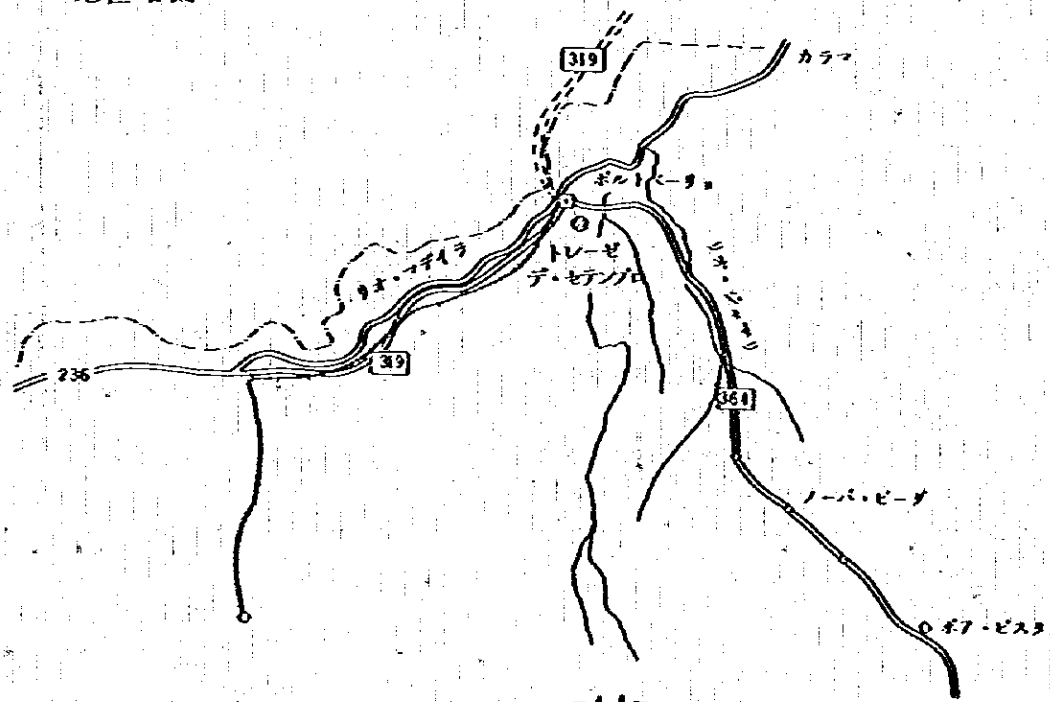
分譲状況	総面積	1,570ha				
	ロッテ面積	30ha				
	分譲条件および価格	無償(但し別量その他諸経費自己負担)				
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	通称市街地等利用地	除地	
		730ha				
地権取得	(注)日本人のみ 取得27ロッテ					
	昭和53年10月現在					

農 業 の 他	主 作 目	鶏卵, ネギ, ナンキ
	農 業 種 類	鶏卵及び蔬菜相属との複合経営
	農具の普及状況	トラック32台, トラクター1.6台, 耕運機1.0台
	家畜飼養頭数	肉牛36.7頭, 豚11.8頭, 役馬0.8頭, 種牛0.6頭
営農促進機関	事業団ベレーン支所及び同支所マナウス支所	
営農指導	アマゾン州農村信用連済協会ボルト・ベリー支所	
金融機関	銀行, 事業団	
その他	ボルト・ベリー市を市場として市内に邦人専用の売店を持ち, そこで相当有利に蔬菜, 卵を販売している。	

移住地略図



地区略図

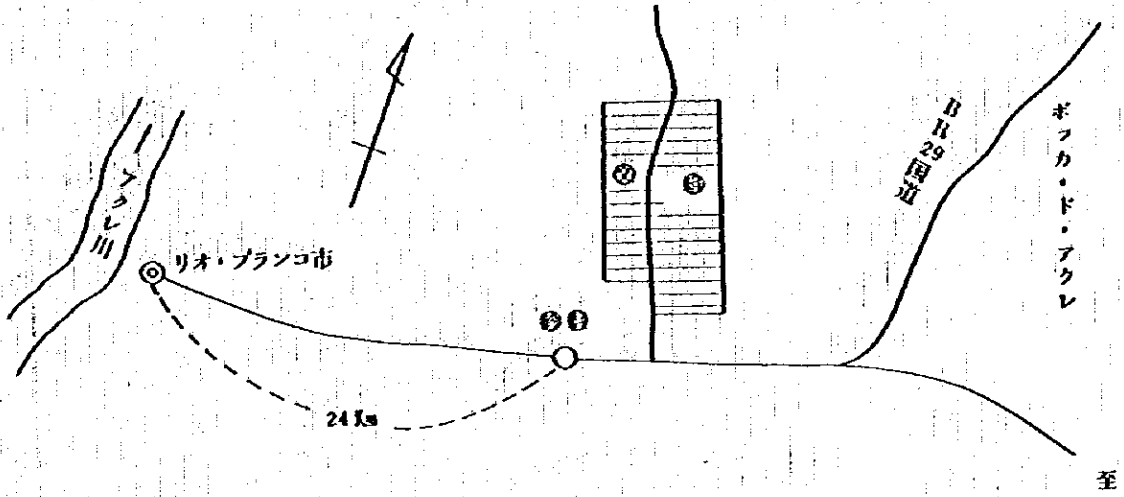


02 キナリー移住地

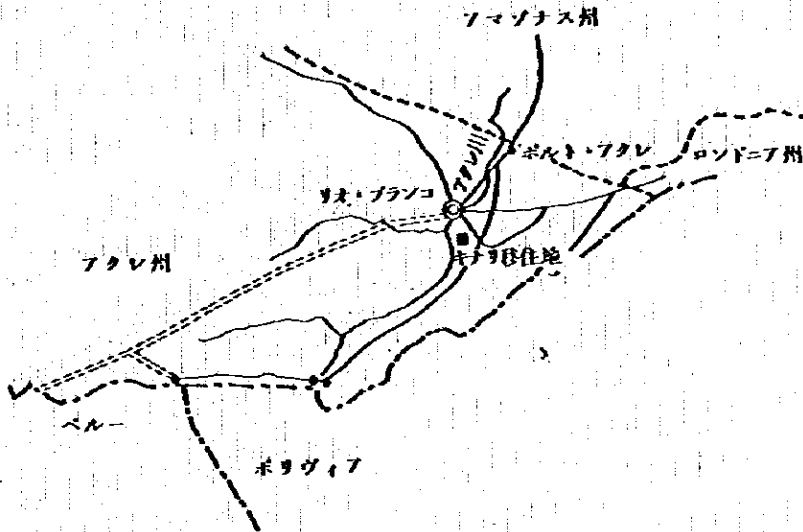
所在地	アクレ州, リオ・ブランコ郡 MUNICÍPIO DO RIO BRANCO, ESTADO DO ACRE	
面積	1,500 ha	
経緯	昭和 28 年アクレ直轄州 (現在のアクレ州) の農業振興を目的として同移住地が創設され, 昭和 33 年および 34 年に最初の日本人農業移住者 13 家族が入植したが, 市場の狭小さが決定的な要因となって, 間もなく 8 家族が転住していった。その後, 更に 1 名転住。現在, 日本人移住者は 3 家族	
自然条件	地形	極めて平坦な段状地。地区内小川が数本流れている。
	地質・土壤	第 3 紀層を母岩とするラテライト土壤で黄色または暗赤褐色の植土。一部にデーラ・ロツア地帯がある。地味肥沃で一般に酸性。
	植生・林相	自生するカスターア・ド・パラ (パラ栗) の巨木が相当見られ, 植生の繁茂は良く; 林相は密で深い。
	気候	雨期 11 月～4 月, 乾期 5～10 月, 平均最高気温 31.7℃, 平均最低 15.4℃ 平均年間降雨量 1,679mm
社会	主要都市への交通手段	アクレ州首都のリオ・ブランコ市まで陸路で 28km あり, 移住地入口までの 24km は完全舗装道路。移住地入口より各自耕地まで約 4km 程度は未だ無舗装のため雨降になると道路状況が悪くなるが, トラック, シープによる通行であれば通行不可能となることはない。自動車での所要時間約 30 分。リオ・ブランコ～ポルト・ベリョ間には 1 日 2 往復, バスが運行している。
	市場	リオ・ブランコ市のみで, 生産物は商人が庭先まで買付に来る。昭和 45 年中北約 500 家族が地区周辺に入植開墾したため, 一時比較的市価が下落したこともあるが, 現在, アマゾン開発ブームは国道, 州道の急速な拡充と相まって当地区まで押し寄せており, 市の人口も急増傾向にあり市場の将来に不安はない。
環境	地区内道路整備状況	雨期の 1～4 月までは地区内のみの道路状況が悪化するが, 従来の様に交通困難となることは少なく, 地区内の道路も州提供の機械で補修をしている。
境	電気	
	飲料水	飲料水は 10 m 内外の掘井戸を利用しており, 水質は良好である。
境	公共施設	地区内診療所はないが, 州衛生局が看護婦を必要に応じて派遣。また, 事業団雇医師が巡回医療を行っている。リオ・ブランコ市内には日系医師 (南館出身) が開業している。
		学校は公立小学校が地区内にある。中学以上の上級学校はリオ・ブランコ市にある。

入 積 戸 数 と 人 員 地	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数					13							
	人員					81							
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49~52	現地入積者	合計	定着数	
	戸数										18	3	
	人員									81	15		
主なる出身県名													合 計
戸 数													8
分 譲 状 況	総 面 積	1,500ha											
	ロ ッ テ 面 積	30ha											
	分譲条件および価格	(アクレ直轄地政府と駐ベレーン領事との契約)無償。											
	分 譲 条 況	分 譲 済 面 積	未 分 譲 面 積	道路、市街地等 村 用 地	除 地								
	150ha												
地 権 取 得	全戸申請中(含1戸3ロッテ申請者)												
	昭和53年10月現在												
農 業	主 作 目	雑作・養鶏・そ菜											
	営 農 援 護 機 関												
	営 農 指 導	事業団ベレーン支部、アクレ州農村信用保護協会アクレ本部											
	金 融 機 関	銀行											

移住地略図



地区略図



03 その他の移住地概要

州名	地区名	形態	人 口 戸 数	主 要 作 物
パ ラ ー	サンタ・イサベル	自然集団	174戸 (870人)	養鶏、ソ菜、デンデヤシ、マモン、メロン等
	カスタニヤール	・	111 (678)	マモン、マラクジャ、胡椒、カカオ、乳畜、養鶏
	イガラッペアスー	・	66 (130)	胡椒、マラクジャ、マモン、メロン
	サンタ・マリア	・	90 (450)	胡椒、カカオ、マモン、メロン
	カパネマ	・	50 (250)	胡椒、ソ菜
	カゼタン・ボーツ	・	21 (105)	胡椒、カカオ
	モジュール	・	56 (265)	胡椒、
	ブジャール	・	19 (195)	胡椒
	サンタレオン	・	45 (201)	ソ菜、養鶏、胡椒

II. レシーフエ支部

II レシーフェ支部

支部機構

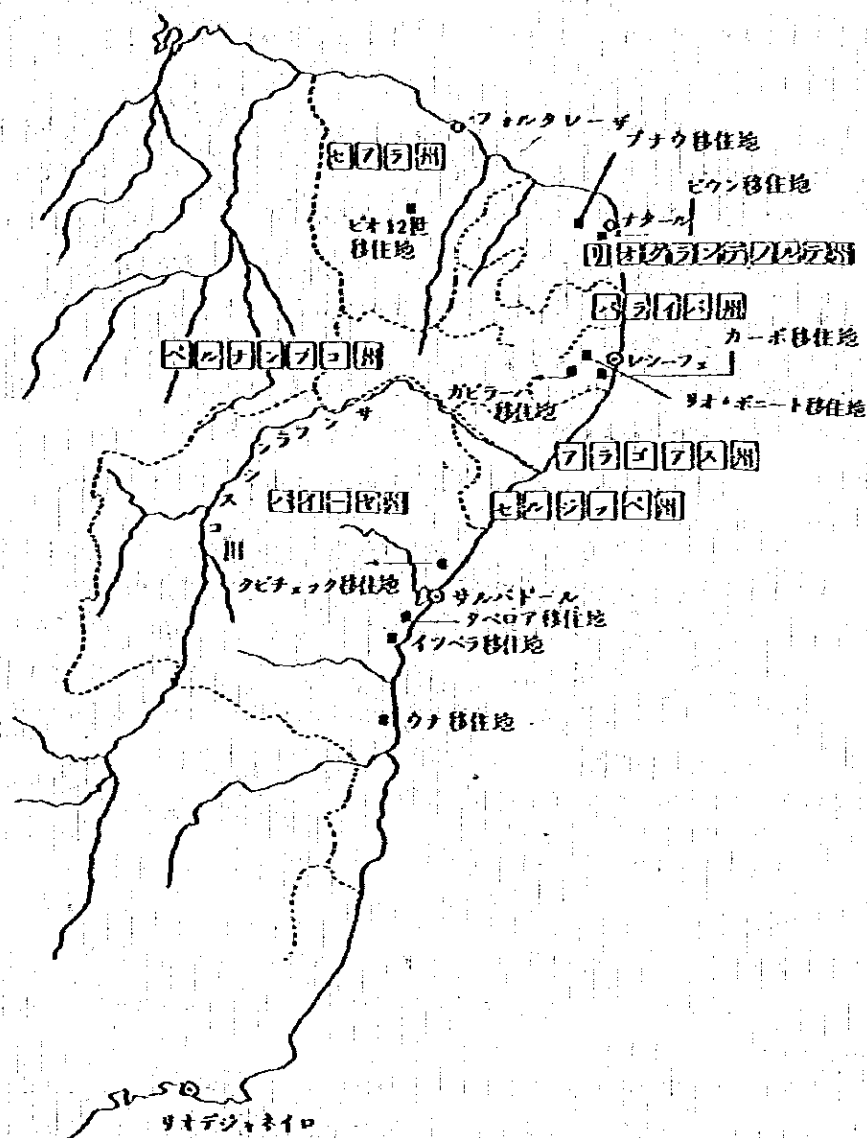
レシーフェ支部(レシーフェ市)

サルバドール出張所

管轄州

セアラ州, ベルナンブコ州, リオグランデ・ド・ノルテ州, パライバ州, アラゴアス州,

セルジッペ州, パイヤ州



1 移住所在地域の概要

管轄地域	<p>ブラジル東北部の次の地域を管轄する。 セアラ州 ベルナンブコ州 リオ・グランデ・ド・ノルテ州 パライバ州 アラゴアス州 セルジッペ州 パイヤ州</p>
概 要	<p>管轄地域の総面積は966,435km²で日本国土面積の2.7倍に当り、ブラジル国土の約11%強を占める広大な地域である。</p> <p>全人口は28,717,976人で全ブラジル人口(約1億2,115万人)の約23%を占め、人口密度は1平方キロメートル当たり297人で全ブラジル平均の14人を上まわっている。127,963km²に及ぶ地域はブラジル東北部の湿潤モンスーン形気候区を含む雨量の多い多様な気候条件下にあり、大西洋に沿ってほぼ帯状をなしている。</p> <p>この地域は古くから砂糖キビ、棉、ココア、椰子の単一経営が行われ比較的開発が進んでいる。一方内陸部のCaatinga地域(642,187km²に及ぶ産木林地帯)を含む半乾燥地域は716,632km²の広大な面積を有しているが、降雨量少く常夏の早稲地帯で農牧開発が最も遅れており、住民は慢性的な食糧不足に悩まされ依然として後進性が強く残存する地域である。</p> <p>東北伯は多数のポルトガル人入植者砂糖園の労働力として導入した黒人奴隷の影響が強く、イペリヤアフリカの社会生活慣習ならびに文化の色彩が強く、また富の差が著しい。</p> <p>1959年末に東北伯開発庁(SUDENE)が設置されブラジル連邦政府の大規模な地域開発政策が施されるに及んでその変貌は著しく、地域内格差の是正に努力がはらわれている。</p>
主 要 部 市	<p>〔レンゾフ・市〕</p> <p>東北伯地域の政治・文化の中心地、人口120.4万人でベルナンブコ州の首府、1980年の国勢調査ではブラジル第3の都市から第6位に落ちているが、これは首府の人口分散計画が功を奏したもので、大レンゾフ市内の人口をもってランク付けをするとS Paulo, Rio de Janeiro, Belo Horizonteに次ぐ第4の都市となる。古くから砂糖、サイザレ麻、棉、植物油脂等の輸出港であるが、近年SUDENEの工業誘致策により軽工業地帯として発展しており、SUAPE工業港の造成が着手される等、輸出回廊整備、近代化も着々と進められている。</p> <p>観光地としても有名で「南米のヴェニス」と呼ばれる程市内には運河が多く、隣接地オリンダ市と共に歴史的建物が多数あり、</p> <p>〔サルバドール〕</p> <p>人口150.6万人、パイヤ州の首府、1501年11月1日アマリコ・ペスブチによって発見され1549年、初代総督トメ・デ・ソウザにより創設され、1763年まで植民地時代のブラジルの首府であった。</p> <p>市は丘の上の上町と海岸沿いの下町(商業地区)に分かれ、これをエレベーターで連絡している。市内には365カ所の教会(カトリック)があり歴史的にも文化的にも日本の京橋に当たる。</p>

古くからココア、煙草、鉱産物の輸出港として栄え、近年石油が州内に産出されるに及んで石油化学工業地帯として発展しつつある。

2 東北伯日本人移住の歴史

1. 戦前の日本人移住：

東北伯地域へは戦前日本からの組織だった移住は行われてはいない。しかし、わずかではあるがアマゾン地域あるいはサンパウロ方面から転住し、商業または農業に従事した邦人があった。例えばフ、ルタレーザの藤田氏（故人、花卉栽培、ベルーより転入者）、レシーフ、およびその近郊の玄場（故人）、佐藤（故人）、樽松（いずれも商業）、平川、猪又、大田（いずれも故人、農業）の各氏があった。又サルパドルおよびその近郊では鳥田・渡辺・時・小笠原（いずれも農業）の各氏をあげることが出来る。

これ等の邦人は戦後日本から当該地域へ移住者を送る場面で受入側に立って陰に陽に便宜を与え、その実績は大きい。

2. 戦後の日本人移住：

戦後の移住は、いわゆる辻村・松原村より開始されたもので先ず昭和28年にはバイーヤ州のウナ達邦移住地向け38世帯235人が送附された。この移住者は入植間もなく配給地への不満からトラブルを起し、一時は半数以上の退耕者を出した。なお、この退耕者の多くは（10戸と推定される）同州内のイツペラ移住地へ受入れられたが、そのわずかを残して南伯方面へ再度転住して行った。昭和31年に至り東北伯地域への移住者が急増した。この大きな理由は農業開発を振興する観点から連邦機関（INIC—現INCRA）・州機関（農務局）により積極的に移住地造成が行われ、日本人移住者が受入れられた為である。

因に昭和31年にピクン移住地（管理者、INIC；N.N.州）の入植が始まり、昭和33年にはリオ・ポニート（INIC）、ジュセリーノ・クビチック（通称JK—州農務局）両移住地およびレシーフ、近郊分益農の受入、翌34年にブナウ（農務局）、35年にピオ12世移住地（INIC）へ移住者が受入れられる等この期間に当該地域の邦人移住者受入数は239戸を数えた。

その後移住者の中には他の地域を求めて転住する者も多くあったが、他方ではアマゾンあるいは南伯地域から転入してくる者もあって今日300戸（農家）を数える。

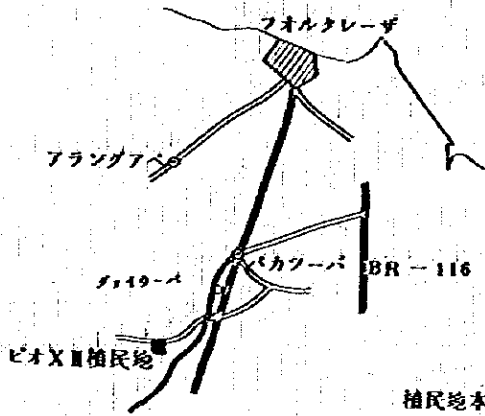
3 移住地の概要

(1) ピオ12世移住地

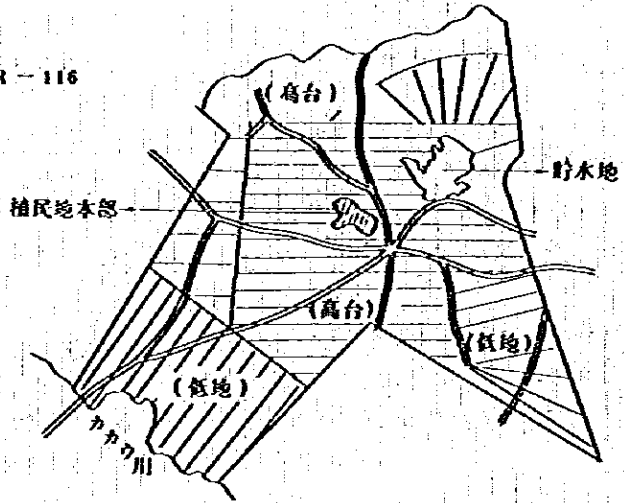
所在地	セアラ州パカトゥバ郡グアイウーバ区ピオ12世移住地(W38°48' S49°0') PIC-PIOM, GUAÍUBA, MUNICÍPIO DA PACATUBA, ESTADO DE CEARÁ (註 PIC=PROJETO INTEGRADO DE COLONIZAÇÃOの略)	
面積	1,390 ha	
経緯	セアラ州に集約的近代農業を普及させると共に、州都フォルタレザ市場へ蔬菜を供給する必要があるとのバライーバ州カンピーナ・グランデ市で開催された北東的カトリック司教会議の提唱により、連邦政府(INIC)が私有農場(サン・ヂェロニモ)を買収して、INIC直営として創設した混合移住地であった。昭和48年INCRA(元INIC)の引上げに伴いパカトゥバ郡に編入された。日本人は昭和34年日本直来の8世帯、レンゾフエからの現地人植1世帯(レンゾフエ分益農家)の計9世帯が入植した。INICは移住地造成に当って低地で灌漑農業を行なわせる予定で用水路の設置を計画していたが、予算不足で完成を見ず、この為4戸がマラニョン州へ転移した。現在残っているのは、その後分家独立した1戸を加えて計6戸である。	
自然環境	<p>地形 標高30~40mの高台地。緩傾斜地・低地より成る大波状地形。</p> <p>地質 花崗岩系母岩から成る積層土または砂質土。</p> <p>植生 密なる灌木林でところに耐乾生の産喬木が見られる。</p> <p>気候 平均最高気温33.0℃、平均最低気温21.0℃、平均気温26.9℃ (1979年 IBGE統計による)</p>	
社会環境	<p>主要都市への交通手段</p> <p>市 場</p> <p>地区内道路整備状況</p> <p>電気</p> <p>飲料水</p> <p>公共施設</p>	<p>移住地~グアイユーバ間砂利道8km、雨天通行支障なし。</p> <p>グアイユーバ~フォルタレザ 完全舗装52km バス便多い。</p> <p>鉄 道37km</p> <p>フォルタレザ市(セアラ州都) 人口130.8万人</p> <p>グアイユーバ町 人口 8千人(推定)</p> <p>フォルタレザ市</p> <p>雨天通行支障なし</p> <p>中心地区のみ配電済み。</p> <p>飲料水は深井戸による。昭和51年度当り予算で深井戸掘削工事を入植者各戸に行い昭和53年2月に完成した。</p> <p>移住地内に小学校がある。医療設備は移住地内にはないが、グアイユーバに医師が在住している。またフォルタレザ市には総合病院があり、日系2世の医師がいる。</p>

入植状況	52年現在 入植累計 9戸(うち現地入植1戸)					
	退耕累計 4戸 独立 1戸 現在 6戸 15名(昭和57年2月現在)					
主なる出身県名		長野	鹿児島		合計	
戸数		5	1		6	
入植者世帯数			入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
日本人	居住	6	15	6		
	非居住 計	6	15	6		
昭和57年2月末現在						
分譲状況	総面積	1,390 ha				
	ロッテ面積	1ロッテ約20 ha				
分譲条件及価格	本地券交付条件は土地、家屋を含め、約7,000 Cr\$					
	10年の分割払い可(1974.11現在)					
地権取得	全戸取得済					
農業	主作目	養鶏専業農家(4戸) 蔬菜専業農家(2戸)単一形態のため危険性が高い。				
	農具の普及状況	トラック 1.3台、モーター 1.7、粉砕機 0.3、乗用車 0.3、 配給機 0.3、揚水ポンプ 2.0、				
家畜飼育頭数	山羊 80頭、豚 60頭					
農業振興機関	事業団レジャー支部					
金融機関	銀行(B.B. B.N.B)					
その他	この地域は乾燥地帯で、灌漑農業が行なわれている。					

地区略図



移住地略図

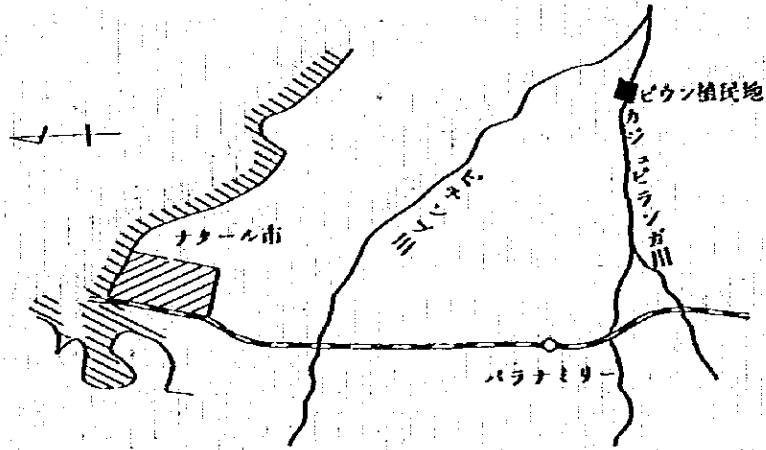


(2) ビウン移住地

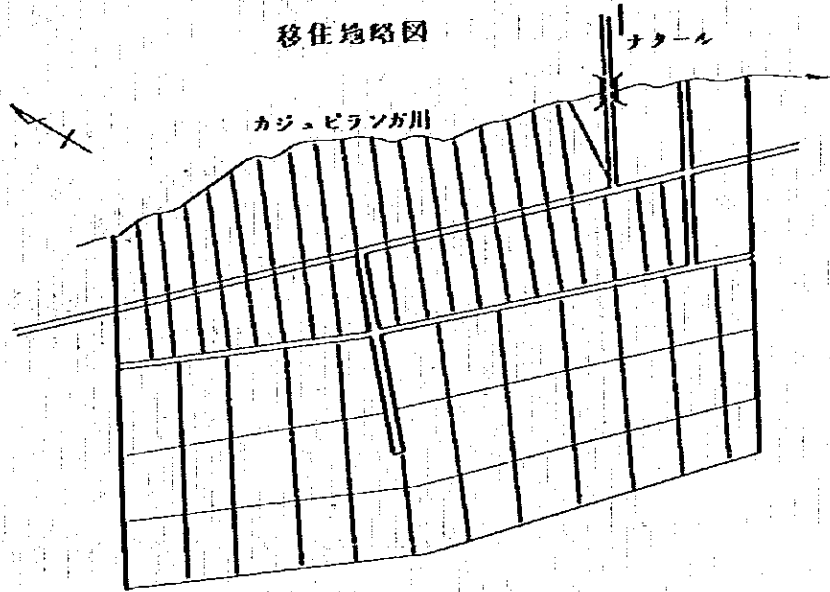
所在地	リオ・グランテ・ド・ノルテ州ニジヤ・フロレスタ郡ビウン移住地 PIC-PIUM, NUNICÍPIO DE NISIA FLORESTA, ESTADO DE RIO GRANDE DO NORTE (註、PIC=PROJETO INTEGRADO DE COLONIZAÇÃOの略)	
面積	3,300 ha	
経緯	地域の農業技術の向上と、州都ナタール市への蔬菜、果実の供給を目的として、日本人と伯国人を混合入植させるべく計画。昭和31年創設された州と連邦の共営移住地である。 入植当初はメロンが大当たりし、前途に大きな希望がもたれたが、昭和35年に集中豪雨があり一時移住者は動揺し、更に昭和45年8月家長の集団交通事故が発生、転住が続いて現在は3戸となっている。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	河岸の浸地帯とそれに連なる緩傾斜の高台地、 低地は有機質の多い黒泥質土壌、台地は砂質土。 低地は雑草類、高台は疎林、附近高台に椰子園あり。 年平均気温25.7℃、平均最高気温33.6℃、平均最低気温19.1℃ 年間降雨量803mm。(1979年IBGE統計) 雨期2～8月 乾期9～1月
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 電気 飲料水 公共施設	移住地～ナタール市間は、完全舗装道路でバスその他車輛交通ひんげん。 ナタール～レジーフェ間も、完全舗装道路で、バスその他車輛の交通が非常に多い。(バス5時間) ナタール市が主な出荷先であるが、市場狭小なため、乾期はレジーフェ市にも出荷している。(主として輸入出荷) ナタール市は近年発展が著しく将来性はある。 砂道。雨季通行支障なし 全戸配電済み。 飲料水は深井戸で水質良好、水量豊富。 INCRA事務所、小学校、工業学校、クラブ1 地区内に診療所があり毎週内科医、産科医が出張していたが、INCRAに移管された昭和48年以降は中断している。 地区内に小学校1校ある。
入植状況	入植果計 11戸(うち現地入植2戸) 入植果計 8戸 現在 3戸 7名(昭和56年3月末)	

主なる出身県名		神奈川	熊本	茨城		合計
戸数		1	1	1		3
入植世帯数	ビウン		入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	日本人	居住 非居住 計	3	7	3	
			3	7	3	
昭和56年3月末現在						
分譲状況	総面積	3,300 ha				
	ロッテ面積	1ロッテ50 ha				
		台地 47.0~47.5 ha				
		低地 2.5~3.0 ha				
	分譲条件及価格	1975年本地権交付、土地、家屋含み約8,000~9,000 Cr \$分譲可。(地権交付時の条件)				
	地権交付	全戸取得済				
農業	主要形態	メロン、スイカ、グラジオラス メロン、スイカ等野菜を主体とし、これにグラジオラス等の花卉を組み合わせた経営				
	農具の普及状況	耕機 1.5台 鋤 1.0台 脱穀機 0.5台 精米機 0.5台				
	家畜飼育頭数	特になし				
	営農支援機関	事業団レゾーフ支部				
	金融機関	銀行、事業団				
	その他	1ロッテ50haが砂質土の台地で占められ、台地にはココヤシ、カチュが植え付けられているが地力にとぼしいため生育は芳しくなく、そのため低地約5haを利用した花卉と野菜栽培が主体となっている。				

地区略図



移住地略図



(3) リオ・ボニート移住地

所在地	ペルナンブコ州ボニート郡リオ・ボニート移住地 PIC-RIO BONITO, MUNICÍPIO DE BONITO, ESTADO DE PERNAMBUCO (註, PIC=PROJETO INTEGRADO DE COLONIZAÇÃOの略)	
面積	1,380 ha	
経緯	昭和31年、パライー州カンピーナグランヂ市で開催された東北的カトリック司教会議の決議により、東北的地域の経済および社会の発展と東北的人の定着、更にはレンシーフェ市の食糧供給地帯とする目的で、INIC(現INCRA)が創立したものである。 日本人に対しては、特に夏季乾燥期に標高の高い土地を利用しての農業栽培が期待されていた。日本人は昭和33年に5世帯、昭和35年に9世帯が日本からの直来で入植した。 その後貸与物件(草畑)の利用をめぐって感情的な対立が生じ転出する者が出た。逆にブナウ移住地からの転出者が入植する等、一時的移転が激しかったが、結局、現在日本人は16世帯が入植している。移住地は昭和48年INCRAの引当りともない郡に編入された。	
自然環境	地形・土壌 森林相 気候	全体として起伏の多い丘陵地、溪流各所にあり、高地部砂埃土、低地部(谷間)は植埃土〜埃土 森林多い(主として再生林) 年平均気温 22.3℃ 平均最高気温 26.8℃ 平均最低気温 17.7℃ 年間降雨量 1,900mm(1981年現地委託観測データー) 雨期3〜8月 乾期9〜2月 区別は比較的明確
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 電気 飲料水 公共施設	レンシーフェ〜ボニート間は舗装、ボニート〜リオ・ボニート植民地間はまだ舗装されていない。 レンシーフェ市〜ボニート市は定期バス1日3往復。 レンシーフェ市人口 120万人 ボニート市人口 1万人 主体はレンシーフェ市、一部カルブリー市へ各戸出荷、ただし、花卉栽培は共同出荷 良好。幹線8m巾、支線6m巾 全地区電化済 各戸未汲井戸、水質良好、水量豊富。 移住地内に診療所がある。ボニード市には無料診療所のほか、社会保険の適用ある診療所または総合病院がある。

学校は移住地内に農村小学校が1校ある。ポニート市には高校まである。
他の施設としては、農協事務所1、売店1、倉庫、修理工場1、製材所1、
等があるが移へ移管された後は活用されていない。

入 住 戸 数 と 人 員 (内地)	年 度	33	34	35	36	37		40	41	42	43
	戸 数	5		9							
	人 員										
	年 度	44	45	46	47	48	49~52	現 地 入 住 者	合 計	定 着 数	
戸 数							13	27	16		
人 員									77		

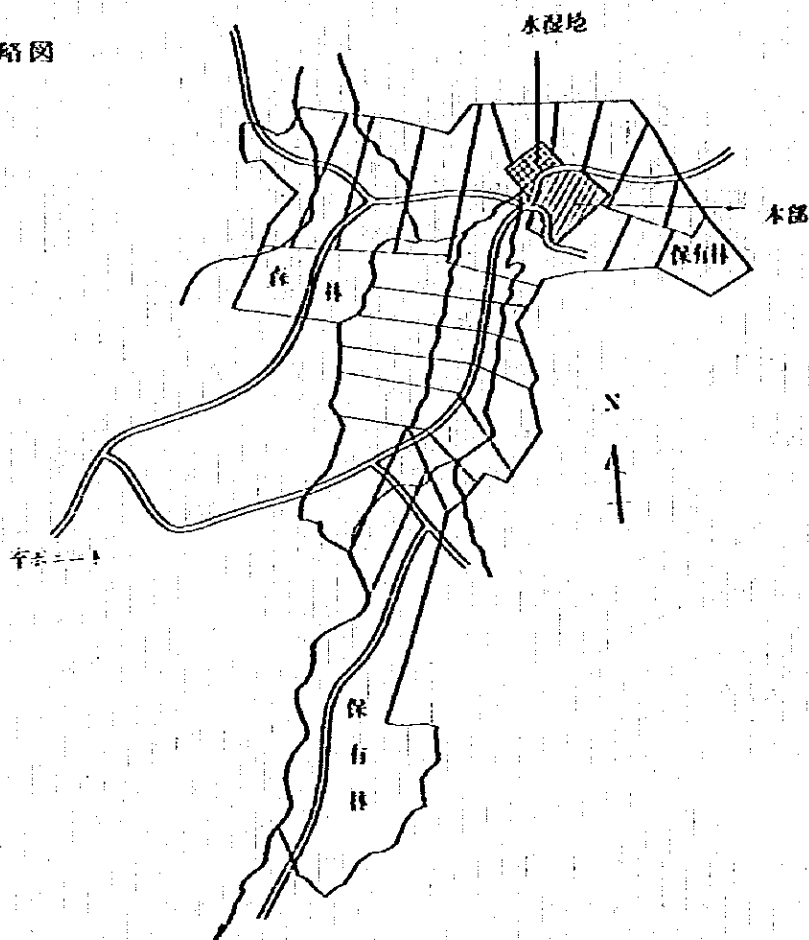
主なる出身県名	福 岡 県	長 野 県	長 崎	そ の 他	計
戸 数	3	3	3	7	16

入 住 世 帯 数			人 住 世 帯 数		農 家 戸 数	
			戸 数	人 数	戸 数	人 数
	日 本 人	居 住 非 居 住 計	13 3 16	65 12 77	13 3 16	

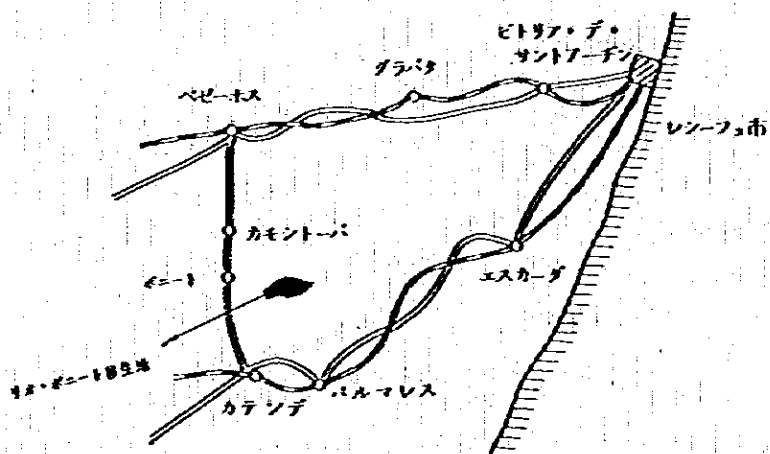
昭和56年9月末現在

分 譲 状 況	総 面 積	1.380 ha
	ロッテ面積	1ロッテ約20~25 ha
農 業	分譲条件及び価格	1973年12月31日日本送券交付 6,000~10,000Cr\$, 10年年賦 払
	地 権 取 得	全戸取得済
農 業	主 作 目	バラ、キャベツ、ピーマン
	形 態	バラ、グラジオラス等を花卉経営に蔬菜経営を組み合わせた経営
	農機具の普及状況	トラック 0.8台 トラクター 0.5台 脱穀 1.8台
	家畜飼育頭数	特になし
	営農支援機関	事業団レンゾフエ支店 営農指導 銀行 金融機関
主作目の販売取扱機関	卸売商人、マガリ-食品加工会社	
そ の 他	当初マラクジャ栽培が順調に伸びていたが値下がりにより蔬菜に転向、永年作物として相模が植え付けられた。その後、近年でサンプロより転住してきた者が、バラ、グラジオラス等の花卉栽培を導入、これが現在営農の主体となっている。	

移住地略図



地区略図



(4) ウナ移住地

所在地	パイーヤ州ウナ移ウナ移住地 PIC UNA, MUNICÍPIO DA UNA, ESTADO DA BAHIA (註 PIC=PROJETO INTEGRADO DE COLONIZAÇÃOの略)	
面積	5,494 ha	
経緯	昭和16年パイーヤ州が民有地を買収し、州内農業者の定着を目的として創設した移住地であったが、昭和24年連邦直営となった。第2次大戦後ブラジルに日本人の移住が再開されてアマゾン地域と時を同じくして最初に日本人移住者が集団入植した移住地である。 昭和28年より4年に亘り50世帯が入植したが日本人移住者け入植後まもなく一部の移住者により事件を起し15世帯の離脱者を出し、内10世帯はイツペラ移住地へ、5世帯はジャイーバ移住地へ移転した。	
自然環境	地 形 地 質 ・ 土 壌 植 生 ・ 林 相 気 候	波状地形、小河川およびその流域低湿地、傾斜地および高台から成る。 低地は有機質に富む土壌。傾斜地および高台地は第三紀層の砂質土または砂質土壌 熱帯降雨林で、林相は密である。 年平均気温22.5℃ 平均最高気温25.0℃ 平均最低気温20.0℃ 年間降雨量2,300mm 雨期4～8月、乾期9～3月 (1981年現地委託観測データ)
社会環境	主要都市への交通手段 市 場 途区内道路整備状況 電 気 公 共 施 設	ウナ移住地～イタブナ間 砂利舗装道、毎日バス往復 イタブナ～サルバドール間 定期バス毎日ひんぱん、所要8～10時間 ウナ～イレウス間 直通通路建設中 イタブナ、イレウスに空港あり、移住地内にテコテコ発着場あり。 イタブナ市人口 13.8万人(130千) ウナ町人口 2.3万人(10千) イレウス市人口 約7.3万人 イタブナ市、ウナ町 良好 センター地区は、ウナ町より送電々化済。またロッテ内は、領国銀行からの資金導入と事業団の電化助成により1981年に全域が電化した。 小学校2、会館1、倉庫1、修理工場1、売店1 移住地内に診療所、薬局があり医師看護婦が常駐している 小学校(5年生)は途区内にあるが、中学以上の上級学校はウナ町、イタブナ市に寄宿している。

入植戸数と人員 (内地)	年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数	38	1	4	8										
	人員														
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49~52	現地入植者	合計	定着数			
戸数									23	74	31				
人員											153				

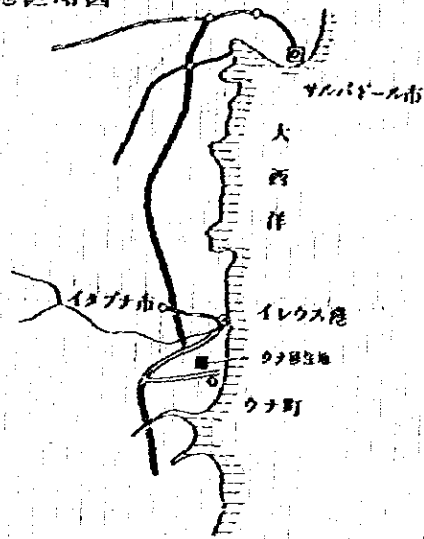
主なる出身県名	北海道	京都府	東京都	その他	合計
戸数	7	5	5	14	31

入植世帯数			入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	日本人	居住 非居住 計	29 2 31	153 153	24 24	

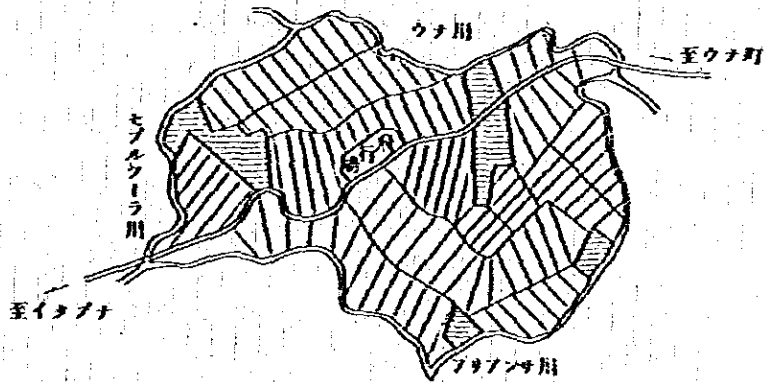
昭和56年9月末現在

分譲状況	総面積 5,494 ha ロット面積 30 ha 分譲条件及価格 26~40 ha 1ロットCr\$3,000~Cr\$7,000 一括払~10年払 (1975年10月10日現在) 分譲状況 済植 地権取得 分譲契約期日は1975年10月から1976年7月で全戸取得済
農形	主作目 バラゴム, コシヨウ, カカオ 農機具の普及状況 バラゴムを主体に, コシヨウ, カカオ等を組み合わせた経営・作業栽培家もある。 トラクタ 0.6台 トラクター 0.6台 材運機 0.5台 郵便 0.3台 営農支援機関 事業団レシーフ支隊 カカオ栽培地帯農業振興審議会(CEPLAC) 管農指導 銀行 B. B 協賛 金融機関 仲買人と庭先販売 主作目取扱機関 その他 入植当初, 植民局(現在のINCRA)よりゴムの栽培が義務づけられた。そのゴムが採収の段階に入って病害におかされ経営的に低迷していたが, その後カカオ, コシヨウ等が導入され営農は立ち直りつつある。

地区略図



移住地略図



(5) カーボ移住地

所在地	ペルナンブコ州カーボ郡カーボ移住地 COLONIA CABO, MUNICÍPIO DE CABO, ESTADO DE PERNAMBUCO	
面積	3,500 ha	
経緯	ペルナンブコ州政府は、土地を持たない農民に土地を与え生産意欲を向上させるため、昭和38年レソーフエ南方30kmの不良甘蔗料地を接収し、州直営の移住地として創設した。 この移住地に対し、ブナウ移住地の転出者、レソーフエ、近郊分益農の日本人合計12家族が昭和39年から41年にかけて入植した。 現在、当移住地で農業を営んでいる者は3戸である。不在地主1戸	
自然環境	地形 標高13m 緩傾斜の起伏に富む。 地質・土壌 砂礫キビ炭灰あとのやせ地、下層に不透性粘土層あり 植生・林相 砂礫キビ畑の荒地に入植した。 気候 年平均気温25.5℃、最高平均29℃、最低平均22.3℃、雨量2,064.3mm (レソーフエ地区 1979年IBOE統計)	
社会環境	主要都市への交通手段 移住地人口近くを、レソーフエ〜サルバドール間国道(BR101号線、完全舗装)が通っている。 カーボ市(人口5万人)徒歩20-30分 レソーフエ(120万人)へは35km 市場 レソーフエ市、カーボ市 専業農家3戸は自家用車で出荷する程度 地区内道路整備状況 整備がおくれている。降雨が続くと車輦の通行が非常に困難となる。 電気 電化済 飲料水 井戸水および河川水を利用 公共施設 地区内に小学校が1校ある。日本人子弟はカーボ市の学校へ徒歩通学している。医療機関はカーボ市、レソーフエ市にある。	
入植状況	入植累計 12戸 ブナウ、リオ・ポニート退耕者及びレソーフエ近郊分益農 退耕累計 9戸 レソーフエ市内 現在戸数 3戸 8名(昭和57年2月末)	

入植世帯数			入植世帯数		農家戸数	
	日本人	居住 非居住 計	戸数	人数	戸数	人数
			3	8	3	
			1	5	1	
			4	13	4	
分譲状況	総面積	3,500 ha				
	ロット面積	1ロット50 ha				
農業	分譲条件及価格	土地代3,300 Cr \$, 設置なし10年分括又は一括払い(同額) (1968.12.21日現在)				
	地権取得	全戸取得済				
農業	主作目	蔬菜が中心で一部花卉, プヤバ栽培を行なっている。				
	形態	不良甘蔗耕地であっただけに地力に劣るが, 都市に近く地の利を生かした近郊型農業				
農業	営農民団機関					
	営農指導 金融機関	事業団レシーフ・支部 銀行(協銀, 東北協銀)				

(6) イツベラ移住地

所在地	バイーヤ州イツベラ郡イツベラ移住地 PIC ITUBERA, MUNICÍPIO DE ITUBERA, ESTADO DA BAHIA (註 PIC=PROJETO INTEGRADO DE COLONIZAÇÃOの略)										
面積	5,000 ha										
経緯	昭和29年に州内農業者の定着を目的として創立された州政府の移住地である。昭和28年日本人の入植は、ウナ移住地の事件で離脱した15世帯のうち、10世帯が入植した。当時この移住地は正式に開設されていなかった。転住後間もなく、マラリアの流行が甚威をふるったため、8世帯が離脱したが、その後他からの転住者もあり、現在19世帯になっている。										
自然環境	地形	標高160~230m, 起伏の多い山嶺地, 水浸に恵まれている。 第3紀層砂岩母材, 鉄分の含有多く壤土ないし砂質壤土。 原生林, 再生林あり, 林相は相当厚く有用材も含まれる。 最高平均気温27.8℃, 最低平均気温20.2℃ 年間平均気温23.6℃ 雨期2~7月, 乾期8~1月 平均年間降雨量2,100mm (1981年現地委託観測データ)									
社会環境	主要都市への交通手段	移住地よりイツベラ町まで10km, パレンサ市まで52kmで, 州都サルバドール市へは, 西方ガンドウ町を経て国道101号線により通じている。 サルバドール市より国道101号の州道545号分岐点迄250kmおよびパレンサ市までの52kmは完全舗装, パレンサ市および101号道沿いのガンドウ町との間はそれぞれ未舗装であるが, 道路整備は良好である。 イツベラ町2万人 パレンサ市36万人									
	市内地区内道路整備状況	イツベラ町, パレンサ市, サルバドール市が主な市場である。 砂利道路および盛土である。 市街地内までは電気が導入され灯火用, 動力用に使用されている。 30m程度掘削すると飲料水が得られるが, 現在は河川水, 湧水を利用してゐる。									
入と(内地)横戸数員	年度	28	32	44	45	46	48	49~52	現 地 入 植 者	合 計	定 着 数
	戸 数	10	6	2	3	1	2		7	31	19
	人 員										75

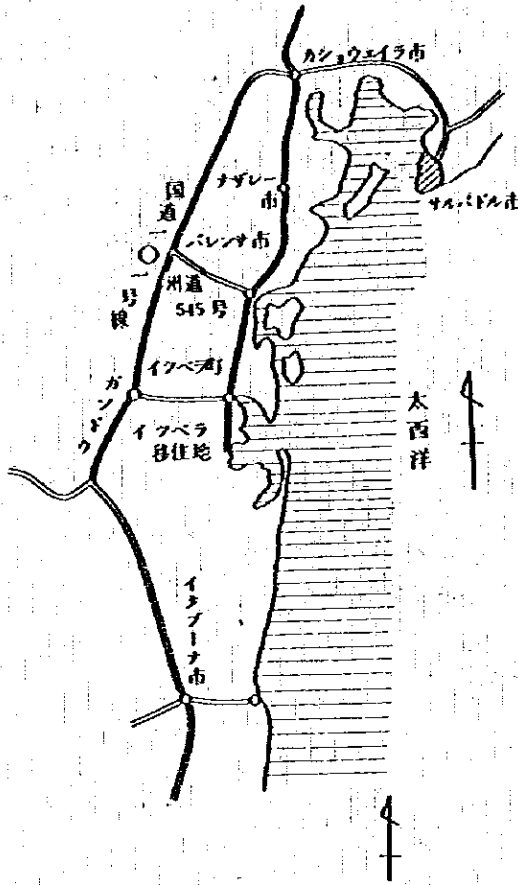
主なる出身県名	福 島	福 岡	三 重	北 海 道		その他県	合 計
戸 数	5	4	1	3		6	19

人 植 世 帯 数			人 植 世 帯 数		農 家 戸 数	
			戸 数	人 数	戸 数	人 数
	日 本 人	居 住 非 居 住 計	18 1 19	70 5 75	18 1 19	

昭和56年9月末現在

分 譲 状 況	<p>総 面 積 5,000 ha ロ ッ テ 面 積 25 ha 分譲条件および価格 25 ha 当り 6,500 Cr\$, 5年分割払, 一括払可能。 18 ha ~ 25 ha 1 ロ ッ テ 分譲価格, 一括払 ~ 20年々賦 Cr\$, 3,000,000 ~ 9,000,000 (1974, 11.28付)</p> <p>分 譲 状 況 況 況 地 権 取 得 全戸取得済</p>
農 業	<p>主 作 目 種 類 チョウジ, コショウ, ハワイマモン チョウジ, コショウ等の工業作物の複合経営</p> <p>農機具の普及状況 トラクター 0.9台, トラック 0.6台, 鋤 1.6台, 耕運機 0.7台 家畜飼養頭数 羊 50頭</p> <p>営農指導機関 事業団ソニーフェ支部 カカオ栽培地帯, 農業振興審議会 (CEPLAC) 金融機関 銀行 (B, B)</p> <p>そ の 他 当移住地丁字 (チョウジ) 栽培の開発により山本喜督司氏 (ブラジルにおける農業功労賞) を授賞した余藤清氏とバイヤ州において胡椒栽培の先鞭をつけた倉谷虎夫氏の二人の篤農家がおり地域の農業をリードしている。また農家経済の安定を図るため熱帯果樹 (マモン等) の導入に意欲的である。これらの作物は, 今や近隣地域のブラジル人の間にも普及され, 香辛香料作物生産地の中核となっている。</p>

地区略図



移住地略図

